

仏 教 学 部

履 修 要 項

平 成 4 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(水) 入学式
 9日(木) } 新入生オリエンテーション
 }
 11日(土) }
 9日(木) } 在校生身分証明登録
 }
 20日(月) }
 9日(木) } 在校生成績発表
 10日(金) }
 9日(木) } 体育実技II受講届(種目選択届)
 10日(金) } 受付(学部2年次生)
 10日(金) } 時事外国語受講届受付
 (経済学部3年次生)
 13日(月) }
 } 在校生成績質疑応答
 18日(土) }
 13日(月) } 前期授業開始
 20日(月) } 履修届受付(学部・短大)
 } (学部により受付日が異なる)
 23日(木) }
 20日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
 }
 24日(金) }
 5月25日(月) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4
 } 年次生)(締切日は正午まで)
 6月10日(水) }
 7月14日(火) } 中間試験及び前期終了定期試験
 } (授業平常どおり)
 20日(月) } 前期授業最終日
 20日(月) } 夏季休業第1日(9月15日まで)
 21日(火) }
 21日(火) } 体育実技II集中授業コース
 } (学部2年次生)
 25日(土) }
 24日(金) } 前期終了科目定期試験欠試験(追試験
 } 申込)受付締切
 9月7日(月) }
 } 補講期間
 11日(金) }

後 期

- 9月16日(水) 後期授業開始
 17日(木) } 前期終了科目定期試験成績発表(質
 } 疑応答)および再試験申込受付
 18日(金) }
 24日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米
 } 文>・法学部・短大国文・英文の1年
 } 次生および昭和63年度以前入学の経
 30日(水) } 済学部の2年次生)

- 24日(木) } 専攻コース指定届受付
 25日(金) } (歴史・社会学科の1年次生)
 25日(金) } 前期終了科目追・再試験
 } (授業平常どおり)
 10月1日(木) }
 5日(月) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
 }
 8日(木) }
 15日(木) } 第110回開校記念日(全学休業)
 28日(水) } 転部・転科試験願書受付
 }
 30日(金) }
 11月16日(月) } 編・再入学願書受付
 }
 20日(金) }
 20日(金) } 転部・転科試験
 12月1日(火) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年
 } 次生)(締切日は正午まで)
 10日(木) } 冬季休業第1日(1月7日まで)
 20日(日) } 体育実技II集中授業コース
 } (学部2年次生)
 20日(日) }
 24日(木) } 編・再入学試験
 21日(月) }

平成5年

- 1月8日(金) 後期授業再開
 14日(木) 後期授業最終日
 16日(土) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
 }
 26日(火) }
 27日(水) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
 } 科目)
 2月3日(水) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の
 } 4年次生)
 5日(金) } 定期試験欠試験届受付締切(学部4年
 } 次生・短大生)
 5日(金) } 定期試験欠試験届(追試験申込)受付締
 } 縮(学部1~3年次生)
 15日(月) } 体育実技IIシーズン・コース(スキ
 } ー)(学部2年次生)
 19日(金) }
 18日(木) } 成績発表(質疑応答)および追・再試
 19日(金) } 験申込受付(学部4年次生・短大生)
 23日(火) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
 } および追試験(学部1~3年次生)
 3月1日(月) }
 19日(金) } 卒業生名簿発表
 25日(木) } 卒業式

授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位数 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業論文 (4)
3. 卒業及び学位記の授与 (4)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (5)
2. 外国語科目の履修方法 (6)
3. 保健体育科目の履修方法 (8)
4. 基礎教育科目の履修方法 (9)
5. 専門教育科目の履修方法 (10)
6. 他学部科目の履修方法 (18)
7. 随意科目の履修方法 (20)
8. 再履修科目の履修方法 (20)
 - ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (21)
 - ※ 授業科目のコード番号について (22)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (23)
2. 履修届記入上の注意 (24)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (25)
 - 授業時間 (25)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (26)
2. 中間試験 (26)
3. 追・再試験 (26)
4. 受験心得 (27)
5. 成績評価・単位認定 (27)
6. 試験時間 (28)
7. 成績発表 (28)

VI	進級について	(29)
VII	クラス制およびクラス主任	(30)
VIII	教職課程・資格講座	(30)
IX	事務取扱いについて	
	1. 事務室の事務受付時間	(31)
	2. 休 講	(31)
	3. 掲示・連絡	(31)
	4. 問い合わせ	(31)
X	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(32)
	2. 休 学	(32)
	3. 復 学	(32)
	4. 退 学	(33)
	5. 除 籍	(33)
	6. 懲 戒	(33)
	7. 編 入 学	(33)
	8. 再 入 学	(33)
	9. 転部・転科	(33)
	10. 留 学	(34)
	11. 学生氏名・保証人	(34)
	12. 学生番号	(34)
XI	既修得単位の認定について	(35)
XII	届書・願書について	(36)
XIII	各種証明書取扱い窓口	(37)
	試験実施規程（抜粋）	(38)
	講義内容	(41)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

A. 平成3年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	24	132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	88	
	選択	12	48		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60年度～平成2年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	24	132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		4	16	16	
専門教育科目	必修	14	38	76	
	選択		30		
	卒業論文(必修)		8		

C. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	24	} 132以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		4	16	16	
専 門 教 育 科 目	必 修	14	38	76	
	選 択		30		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標に基づき、2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

指導教授および論題は、原則として演習Ⅰ、演習Ⅱに基づいて決定することが望ましい。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

イ. 論題提出について

(1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。

(2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（月）～6月10日（水）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ. 論文作成について

(1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。

(2) 論文は提出した論題により作成すること。

(3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。

(4) 論文は楷書でていねいに書くこと。

(5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

(6) 論文作成にあたっては『卒業論文作成の手引』を参照のこと。

ハ. 論文提出について

(1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。

(2) 卒業論文審査願と論文表紙の論題は同一であること。

(3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（火）～10日（木）正午まで（教務部⑥番・臨時窓口）

〔提出期限に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い合否を判定する。

口頭試問日 2月5日（金）

3. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学士の学位が与えられる。

仏教学部 禅学科 …… 学 士（禅学）
仏教学部 仏教学科 …… 学 士（仏教学）

Ⅲ 授業科目の履修方法

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。但し、再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

人文分野	3科目	計12単位	}	合計6科目 24単位
社会分野	2科目	計8単位		
自然分野	1科目	4単位		

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ（1年次必修）	4	}	12	} 24	
	哲 学	4				
	論 理 学	4				
	文 学	4				
社会分野	法 学 憲 法 （日本国憲法2単位を含む）	4	}	8	} 24	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。
	経 済 学	4				
	社 会 学	4				
自然分野	自 然 科 学 概 論	4	}	4	} 24	
	心 理 学	4				
	人 類 学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになる。その2ヵ国語を、1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6ヵ国語のうち英語ⅠA・ⅠBの2科目と、入学手続の際に指定した外国語ⅠA・ⅠBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語ⅠA	2		ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。ただしⅠAは「英会話Ⅰ（定員40名）」または「英語LLⅠ（定員30名）」に振り替えできる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語ⅠB	2		
英会話Ⅰ	2		
英語LLⅠ	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語ⅠA	2	文法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。
ドイツ語ⅠB	2	講読	
フランス語ⅠA	2	文法	
フランス語ⅠB	2	講読	
中国語ⅠA	2		
中国語ⅠB	2		
スペイン語ⅠA	2		
スペイン語ⅠB	2		
ロシア語ⅠA	2		
ロシア語ⅠB	2		

※ 英語科目内容

英語ⅠA：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語ⅠB：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語ⅠB」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修した2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語としてⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 Ⅱ A	2		中 国 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2		中 国 語 Ⅱ B	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

外国語科目履修上の注意

イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスで履修すること。

ロ. 1年次の9月24日（木）～30日（水）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。

また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、登録は必ず行うこと。

ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。

ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.20参照）。

ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目の履修方法

A. 平成3年度以降入学生適用

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において1科目4単位を必修とする。

履修年次	学 科	授 業 科 目	単 位	備 考
1 年 次	禪 学 科	禪学序説	4	
	仏教学科	仏教学序説	4	

B. 平成2年度以前入学生適用

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授 業 科 目	単 位	備 考
1 年 次	基礎仏教学	4	(禪学科) 禪学序説 (仏教学科) 仏教学序説
	仏書解説Ⅰ	4	
2 年 次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は禅学科と仏教学科で異なる。

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討すること。なお、一度単位を修得した科目については再度履修することはできない。

禅 学 科

必 修 科 目 (40単位)

A. 平成3年度以降入学生適用

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二年次	坐 禅 I	4	坐禅(坐禅儀)	
	宗 典	4	正法眼蔵・伝光録	
三年次	演 習 I	4		※
四年次	卒 業 論 文	8	4 頁参照	
二・三 年次	禅 学 研 究 I	4	教義に関するもの	} 2 年次 1 科目 3 年次 1 科目 計 2 科目 8 単位 選 択 必 修
	禅 学 研 究 II	4	実践に関するもの	
	禅 学 研 究 III	4	教団に関するもの	
	禅 学 研 究 IV	4	歴史に関するもの	
	インド仏教史	4		} 1 科目 4 単位 選 択 必 修
	パーリ仏教史	4		
	チベット仏教史	4		
	中国仏教史	4		
	朝鮮仏教史	4		
	日本仏教史	4		
	中国禅宗史	4		
	日本禅宗史	4		
三・四 年次	禅 籍 講 読 I	4	【中国初期】二入四行論・絶観論・六祖壇経・参同契等	} 3 年次 1 科目 4 年次 1 科目 計 2 科目 8 単位 選 択 必 修
	禅 籍 講 読 II	4	【中国後期】宏智録・従容録・如浄録・臨濟録等	
	禅 籍 講 読 III	4	【日本初期】正法眼蔵・永平伝録・伝光録・信心銘拈提等	
	禅 籍 講 読 IV	4	【日本後期】元山伝録・面山伝録・五家参詳要略門・盤柱禅師語録等	

※ 演習Ⅰ・演習Ⅱ(選択科目)の履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

禅学 科

選 択 科 目 (48単位以上)

A. 平成3年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
1・2・3・4年次選択			仏教研究Ⅳ	4		宗教行政	4	隔年開講
宗 教 史	4		仏教特講Ⅰ	4		新宗教概説	4	輪 番 開 講 本 年 度 は 「新宗教 概説」
日 用 経 典	4		仏教特講Ⅱ	4		神道概説	4	
中国古典語初級	4		仏教特講Ⅲ	4		宗教哲学	4	
2・3・4年次選択			仏教特講Ⅳ	4		キリスト教概論	4	
仏書解説Ⅰ	4		仏教特講Ⅴ	4		キリスト教史	4	
仏書解説Ⅱ	4		仏教特講Ⅵ	4		パーリ語初級	4	
仏教語解説	4		インド仏教思想史	4		パーリ語上級	4	
禅学概論	4		中国仏教思想史	4		サンスクリット語初級	4	
禅学研究Ⅰ	4	必修とした 科目以外を 履修するこ と	インド仏教文化史	4		サンスクリット語上級	4	
禅学研究Ⅱ	4		パーリ仏教特講	4		チベット語初級	4	
禅学研究Ⅲ	4		仏典研究	4		チベット語上級	4	
禅学研究Ⅳ	4		原始仏教	4		中国古典語上級	4	※イ
禅学特講Ⅰ	4		外国語仏書演習	4		ラテン語特講	4	
禅学特講Ⅱ	4		各宗綱要(浄土学)	4	輪 番 開 講 本 年 度 は 「浄土学」	青少年問題研究	4	
禅学特講Ⅲ	4		各宗綱要(真言学)	4		青少年指導演習	4	
禅学特講Ⅳ	4		各宗綱要(日蓮教学)	4		心理学概論	4	
禅学特講Ⅴ	4		仏教民俗学	4		詩 偈	4	
禅学思想史	4		仏教美術	4		書 道	4	
禅 美 術	4		仏教伝道概説	4		3・4年次選択		
禅 心 理 学	4		仏教伝道研究	4		坐 禅 Ⅱ	4	※ロ
インド仏教史	4	必修とした 科目以外を 履修するこ と	哲学概説	4		禅籍講読Ⅰ	4	必修とした 科目以外を 履修するこ と
パーリ仏教史	4		現代哲学概説	4		禅籍講読Ⅱ	4	
チベット仏教史	4		哲学史	4		禅籍講読Ⅲ	4	
中国仏教史	4		哲学史特講	4		禅籍講読Ⅳ	4	
朝鮮仏教史	4		哲学演習	4		仏典講読Ⅰ	4	
日本仏教史	4		インド哲学史	4		仏典講読Ⅱ	4	
中国禅宗史	4		中国哲学史	4	休講	仏典講読Ⅲ	4	
日本禅宗史	4		東洋思想研究	4		仏典講読Ⅳ	4	
仏教概論	4		中国文学概論	4		4年次選択		
仏教研究Ⅰ	4		中国文学演習	4		演 習 Ⅱ	4	
仏教研究Ⅱ	4		宗教学概論	4				
仏教研究Ⅲ	4		宗教教育	4				

※イ. 中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

※ロ. 坐禅Ⅱは曹洞宗教師資格取得を希望するものは履修することが望ましい。

禪 学 科

必 修 科 目 (46単位)

B. 平成2年度以前入学生適用

	授業科目	単位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	禪 学 概 論	4		
	禪 宗 史 I	2	中国禪宗史	
	宗 典 講 読 I	2	修証義・用心集・随聞記	
	禪 学 実 習 I	2	坐禅（坐禅儀）	
三 年 次	宗 典 講 義 I	4	正法眼蔵	
	禪 宗 史 II	2	日本禪宗史	
	宗 典 講 読 II	2	大清規・信心銘拈提	
	禪 学 講 義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	
	禪 学 演 習 I	2	碧巖録・従容録・無門関	
	禪 学 実 習 II	2	坐禅（用心記）	
四 年 次	演 習 I	4		
	宗 典 講 義 II	4	伝光録	
	禪 学 演 習 II	2	洞山録・永平語録・臨濟録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8	4頁参照	

※ 演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので
 掲示に注意すること。

禅 学 科

選 択 科 目 (30単位以上)

B. 平成2年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
1・2・3・4年次選択			仏教研究Ⅲ	4		東洋思想研究	4	
宗 教 史	4		仏教研究Ⅳ	4		中国文学概論	4	
日 用 経 典	4		仏教特講Ⅰ	4		中国文学演習	4	
中国古典語初級	4		仏教特講Ⅱ	4		宗 教 学 概 論	4	
2・3・4年次選択			仏教特講Ⅲ	4		宗 教 教 育	4	
禅学研究Ⅱ	4		仏教特講Ⅳ	4		宗 教 行 政	4	隔年開講
禅学研究Ⅳ	4		仏教特講Ⅴ	4		新 宗 教 概 説	4	輪 番 開 講 は 「新宗教概説」
禅学特講Ⅰ	4		仏教特講Ⅵ	4	旧「仏教研究」	神 道 概 説	4	
禅学特講Ⅱ	4		インド仏教文化史	4	旧「印度仏教文化史」	宗 教 哲 学	4	
禅学特講Ⅲ	4		パーリ仏教特講	4		キリスト教概論	4	
禅学特講Ⅳ	4		仏 典 研 究	4		キリスト教史	4	
禅学特講Ⅴ	4	旧「禅特講」	原 始 仏 教	4		パーリ語初級	4	
禅学思想史	4		外国語仏書演習	4		パーリ語上級	4	
禅 美 術	4		各宗綱要(浄土学)	4	輪 番 開 講 本 年 度 は 「浄土学」	サンスクリット語初級	4	
禅 心 理 学	4		各宗綱要(真言学)	4		サンスクリット語上級	4	
インド仏教史	4	旧「印度仏教史」	各宗綱要(日蓮教学)	4		チベット語初級	4	旧「チベット語(文法)」
パーリ仏教史	4		仏 教 民 俗 学	4		チベット語上級	4	旧「チベット語(講読)」
チベット仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅱ」 (チベット)	仏 教 美 術	4		中国古典語上級	4	※
中国仏教史	4		仏教伝道概説	4	旧「教化法」	ラテン語特講	4	
朝鮮仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅰ」 (朝鮮)	仏教伝道研究	4	旧「青少年教化法」	青少年問題研究	4	
日本仏教史	4		哲 学 概 説	4		青少年指導演習	4	
仏教概論	4		現 代 哲 学 概 説	4		心 理 学 概 論	4	
仏教教理史Ⅰ	2	印 度	哲 学 史	4		詩 偈	4	
仏教教理史Ⅱ	2	中 国	哲 学 史 特 講	4		書 道	4	
仏教研究Ⅰ	4		哲 学 演 習	4				
仏教研究Ⅱ	4		中 国 哲 学 史	4	休 講			

※ 中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

〔廃講科目〕

禅学研究・禅籍講義・パーリ語演習・サンスクリット語演習

〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
仏教特講Ⅵ	仏教研究	禅学特講Ⅴ	禅 特 講
インド仏教史	印度仏教史	チベット語 初級	チベット語(文法)
インド仏教文化史	印度仏教文化史	チベット語 上級	チベット語(講読)
朝鮮仏教史	仏教史特講Ⅰ 朝鮮	仏教伝道概説	教 化 法
チベット仏教史	仏教史特講Ⅱ チベット	仏教伝道研究	青 少 年 教 化 法

仏教学科

必修科目(40単位)

A. 平成3年度以降入学生適用

	授業科目	単位	科目内容	備考
二年次	坐 禅 I	4	坐禅(坐禅儀)	
	宗 典	4	正法眼蔵・伝光録	
三年次	演 習 I	4		※
四年次	卒 業 論 文	8	4頁参照	
二・三 年次	仏教研究Ⅰ	4	教義に関するもの	} 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
	仏教研究Ⅱ	4	実践に関するもの	
	仏教研究Ⅲ	4	教団に関するもの	
	仏教研究Ⅳ	4	歴史に関するもの	
	インド仏教史	4		} 1科目4単位 選択必修
	パーリ仏教史	4		
	チベット仏教史	4		
	中国仏教史	4		
	朝鮮仏教史	4		
	日本仏教史	4		
	中国禅宗史	4		
	日本禅宗史	4		
三・四 年次	仏典講読Ⅰ	4	原始・部派仏教(Vinaya・Suttanipāta・清浄道論・俱舍論等)	} 3年次1科目 4年次1科目 計2科目8単位 選択必修
	仏典講読Ⅱ	4	大乘仏教(般若経・法華経・華嚴経・中論等)	
	仏典講読Ⅲ	4	中国仏教(三論玄義・摩訶止観・華嚴五教章・四分律行事鈔等)	
	仏典講読Ⅳ	4	日本仏教(三経義疏・顕戒論・往生要集・數異抄等)	

※ 演習Ⅰ・演習Ⅱ(選択科目)の履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

仏教学科

選択科目(48単位以上)

A. 平成3年度以降入学生適用

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
1・2・3・4年次選択			インド仏教史	4	必修とした科目以外を履修すること	宗教行政	4	隔年開講
宗教史	4		パーリ仏教史	4		新宗教概説	4	輪番開講は「新宗教概説」
日用經典	4		チベット仏教史	4		神道概説	4	
中国古典語初級	4		中国仏教史	4		宗教哲学	4	
2・3・4年次選択			朝鮮仏教史	4		キリスト教概論	4	
仏書解説Ⅰ	4		日本仏教史	4		キリスト教史	4	
仏書解説Ⅱ	4		中国禅宗史	4		パーリ語初級	4	
仏教語解説	4		日本禅宗史	4		パーリ語上級	4	
仏教概論	4		禅学概論	4		サンスクリット語初級	4	
仏教研究Ⅰ	4	必修とした科目以外を履修すること	禅学研究Ⅰ	4		サンスクリット語上級	4	
仏教研究Ⅱ	4		禅学研究Ⅱ	4	チベット語初級	4		
仏教研究Ⅲ	4		禅学研究Ⅲ	4	チベット語上級	4		
仏教研究Ⅳ	4		禅学研究Ⅳ	4	中国古典語上級	4	※イ	
仏教特講Ⅰ	4		禅学特講Ⅰ	4	ラテン語特講	4		
仏教特講Ⅱ	4		禅学特講Ⅱ	4	青少年問題研究	4		
仏教特講Ⅲ	4		禅学特講Ⅲ	4	青少年指導演習	4		
仏教特講Ⅳ	4		禅学特講Ⅳ	4	心理学概論	4		
仏教特講Ⅴ	4		禅学特講Ⅴ	4	詩 偈	4		
仏教特講Ⅵ	4		禅学思想史	4	書 道	4		
インド仏教思想史	4		禅 美 術	4	3・4年次選択			
中国仏教思想史	4		禅 心 理 学	4	坐 禅 Ⅱ	4	※ロ	
インド仏教文化史	4		哲 学 概 説	4	仏典講読Ⅰ	4	必修とした科目以外を履修すること	
パーリ仏教特講	4		現代哲学概説	4	仏典講読Ⅱ	4		
仏典研究	4		哲 学 史	4	仏典講読Ⅲ	4		
原始仏教	4		哲学史特講	4	仏典講読Ⅳ	4		
外国語仏書演習	4		哲 学 演 習	4	禅籍講読Ⅰ	4		
各宗綱要(浄土学)	4	輪番開講本年度は「浄土学」	インド哲学史	4	禅籍講読Ⅱ	4		
各宗綱要(真言学)	4		中国哲学史	4	休 講	禅籍講読Ⅲ	4	
各宗綱要(日蓮教学)	4		東洋思想研究	4	禅籍講読Ⅳ	4		
仏教民俗学	4		中国文学概論	4	4年次選択			
仏教美術	4		中国文学演習	4	演 習 Ⅱ	4		
仏教伝道概説	4		宗教学概論	4				
仏教伝道研究	4		宗教教育	4				

※イ. 中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

※ロ. 坐禅Ⅱは曹洞宗教師資格取得を希望するものは履修することが望ましい。

仏教学科

必修科目(46単位)

B. 平成2年度以前入学生適用

	授業科目	単位	科目内容	備考
二年次	仏教概論	4		
	仏教教理史Ⅰ	2	印度仏教教理史	
	仏典演習Ⅰ	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
	禅学実習Ⅰ	2	坐禅(坐禅儀)	
三年次	仏教教理史Ⅱ	2	中国仏教教理史	
	印度哲学史	2		
	経典講読Ⅰ	2	法句経・四十二章経・遺教経・心経・金剛般若経	
	仏典演習Ⅱ	2	起信論・三論玄義・四教儀・五教章	
	宗典講義Ⅰ	4	正法眼蔵	
	禅学実習Ⅱ	2	坐禅(用心記)	
	演習Ⅰ	4		
四年次	経典講読Ⅱ	2	法華経(寿量品・普門品) 般若経・維摩経	
	宗典講義Ⅱ	4	伝光録	
	演習Ⅱ	4		
	卒業論文	8	4頁参照	

※ 演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので
 掲示に注意すること。

仏教学科

選択科目(30単位以上)

B. 平成2年度以前入学生適用

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
1・2・3・4年次選択			仏教伝道研究	4	旧「青少年教化法」	東洋思想研究	4	
宗 教 史	4		インド仏教史	4	旧「印度仏教史」	中国文学概論	4	
日 用 経 典	4		パーリ仏教史	4		中国文学演習	4	
中国古典語初級	4		チベット仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅱ」 (チベット)	宗 教 学 概 論	4	
2・3・4年次選択			中国仏教史	4		宗 教 教 育	4	
仏教研究Ⅰ	4		朝鮮仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅰ」 (朝鮮)	宗 教 行 政	4	隔年開講
仏教研究Ⅱ	4		日本仏教史	4		新宗教概説	4	} 輪 番 開 講 本 年 度 は 「新宗教概説」
仏教研究Ⅲ	4		禅学概論	4		神道概説	4	
仏教研究Ⅳ	4		禅宗史Ⅰ	2	中国	宗教哲学	4	
仏教特講Ⅰ	4		禅宗史Ⅱ	2	日本	キリスト教概論	4	
仏教特講Ⅱ	4		禅学研究Ⅱ	4		キリスト教史	4	
仏教特講Ⅲ	4		禅学研究Ⅳ	4		パーリ語初級	4	
仏教特講Ⅳ	4		禅学特講Ⅰ	4		パーリ語上級	4	
仏教特講Ⅴ	4		禅学特講Ⅱ	4		サンスクリット語初級	4	
仏教特講Ⅵ	4	旧「仏教研究」	禅学特講Ⅲ	4		サンスクリット語上級	4	
インド仏教文化史	4	旧「印度仏教文化史」	禅学特講Ⅳ	4		チベット語初級	4	旧「チベット語(文法)」
パーリ仏教特講	4		禅学特講Ⅴ	4	旧「禅特講」	チベット語上級	4	旧「チベット語(講読)」
仏典研究	4		禅学思想史	4		中国古典語上級	4	※
原始仏教	4		禅美術	4		ラテン語特講	4	
外国語仏書演習	4		禅心理学	4		青少年問題研究	4	
各宗綱要(浄土学)	4	} 輪 番 開 講 本 年 度 は 「浄土学」	哲学概説	4		青少年指導演習	4	
各宗綱要(真言学)	4		現代哲学概説	4		心理学概論	4	
各宗綱要(日蓮教学)	4		哲学史	4		詩 偈	4	
仏教民俗学	4		哲学史特講	4		書 道	4	
仏教美術	4		哲学演習	4				
仏教伝道概説	4	旧「教化法」	中国哲学史	4	休 講			

※ 中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

〔廃講科目〕

禅学研究・禅籍講義・パーリ語演習・サンスクリット語演習

〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
仏教特講Ⅵ	仏教研究	禅学特講Ⅴ	禅 特 講
インド仏教史	印度仏教史	チベット語 初級	チベット語(文法)
インド仏教文化史	印度仏教文化史	チベット語 上級	チベット語(講読)
朝鮮仏教史	仏教史特講Ⅰ 朝鮮	仏教伝道概説	教 化 法
チベット仏教史	仏教史特講Ⅱ チベット	仏教伝道研究	青少年教化法

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.19参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.20）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開学科	授業科目	単位	履修年次	備考	
国文学科	上代文学	4	3・4		商学	財務会計論	4	3・4		
	中世文学	4	3・4			管理会計論	4	3・4		
	近世文学	4	3・4			会計監査論	4	3・4		
	近代文学	4	3・4			商業政策	4	3・4		
	中国文学	4	3・4			貿易論	4	3・4		
英米文学科	英文学特講Ⅰ	4	3・4			マーケティング	4	3・4		
	英文学特講Ⅱ	4	3・4			原価計算論	4	3・4		
	英文学特講Ⅲ	4	3・4			労務管理論	4	3・4		
	英文学特講Ⅳ	4	3・4			法律学科	行政法Ⅱ	4	3・4	
	英文学特講Ⅴ	4	3・4				民法Ⅳ(1)	4	3・4	
	英文学特講Ⅵ	4	3・4		民法Ⅳ(2)		4	4		
	英米演劇特講	4	3・4		政治学科	比較憲法	4	3・4		
	米文学特講Ⅰ	4	3・4			地方自治法	4	3・4		
	米文学特講Ⅲ	4	3・4			経済法	4	3・4		
	時事英語	4	3・4			国際関係論	4	3・4		
地理学科	地質学	4	3・4			西洋政治史	4	3・4		
	地形学Ⅰ	4	3・4			宣伝広告論	4	3・4		
	人口地理学	4	3・4			比較社会構造論	4	3・4	休講	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4			政党論	4	3・4		
	文化地理学	4	3・4			経営学科	経営学史	4	3・4	
歴史学科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	休講			国際経営論	4	3・4	
	日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4		経営統計		4	3・4	休講	
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4		保険経営論		4	3・4		
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4		財務会計論		4	3・4	休講	
	考古学特講Ⅲ	4	3・4	(隔年開講)	経営情報論		4	3・4		
	歴史哲学	4	3・4		経営分析論		4	3・4		
	日本民俗学	4	3・4		税務会計論		4	3・4		
社会学科	マスコミュニケーション	4	3・4		経営労務論		4	3・4		
	産業社会学	4	3・4		商業史		4	3・4		
	都市社会学	4	3・4		短大国文科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4		
	社会福祉発達史	4	3・4			国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4		
経済学科	ソビエト経済論	4	3・4			国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4		
	社会政策	4	3・4			国文講読Ⅳ(近世)	2	3・4		
	国民所得論	4	3・4			国文講読Ⅴ(近・現代)	2	3・4		
	中国経済論	4	3・4			国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4		
	アジア経済論	4	3・4			短英大科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	
	日本経済史	4	3・4		時事英語		4	3・4		
	中小企業論	4	3・4		英語演習Ⅰ		4	3・4		
短放射線大科	教育経済論	4	3・4		計算機言語概論	2	3・4	半期科目		
	アメリカ経済論	4	3・4		臨床放射線特論Ⅰ	2	3・4	半期科目		
					応用計測学	2	3・4	半期科目		

※ 計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日本宗教文化史	4		スペイン語 F	2		中国語FLL(中級)	2	
民間信仰論	4		ロシア語 F	2		スペイン語FLL(初級)	2	
書道史	2	半期科目	英語 L L II	2	※ロ	スペイン語FLL(中級)	2	
編集実務	2	半期科目	ドイツ語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
英会話Ⅱ	2	※ロ	ドイツ語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	
ドイツ語 F	2		フランス語FLL(初級)	2		英語(海外演習)	2	※イ
フランス語 F	2		フランス語FLL(中級)	2				
中国語 F	2		中国語FLL(初級)	2				

※イ。「英語(海外演習)」は、海外姉妹校で行なわれる短期留学セミナーで、1年次生より履修出来る。なお詳細については、講義内容(P.51)を参照のこと。

※ロ。「英会話Ⅱ」・「英語LLⅡ」の履修を希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を再度履修することをいう。

注) 再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は新履修となる。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技Ⅰ・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で，原則として1・2年次において履修すること。

- 日本語科目は，各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は，外国語科目の卒業所要単位に算入する。
 - 日本事情科目の修得単位は，8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
 - 各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は，これを随意科目として単位認定する。
- （注）詳細は，『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.34参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修) ・ 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	1
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1 ・ 2 ・ 3
選 択 科 目		5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の『単位履修届』用紙に必要な事項を記入し届け出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	14科目	—
2年次	14科目以内	18科目以内
3年次	14科目以内	18科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ・随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は必ず本人が記入捺印し、指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は、学業の意志のないものとして処理する。なお、指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし、他学部履修科目（P.19参照）は、履修登録できる。

また、教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日			
授業科目	科目コード	担当	担当コード
一 時 限	ドイツ語ⅠA	112201	百 済 879
二 時 限	保健体育理論(前期)	114201	A10
	保健体育理論(後期)		622
三 時 限	宗 教 学Ⅰ	110101	平井(俊) 735
四 時 限	論 理 学	110203	國 嶋 306
五 時 限	自然科学概論	110401	宇 和 川 104

正しい記入例

曜日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コード	担 当	担 当 コード
(1)	1		ドイツ語ⅠA	1 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前期)	1 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学Ⅰ	1 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	1 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	1 1 0 4 0 1	宇和川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字0と6, 1と7)

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	（禅学科）禅学序説，（仏教学科）仏教学序説（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野：開講科目の中から1科目を選択必修	1
6	専門教育科目	開講科目の中から1科目を選択	1
1年次履修制限科目数			14

授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9：00～10：30	10：40～12：10	12：50～14：20	14：30～16：00	16：10～17：40

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日(火)～7月20日(月)に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日(土)～2月3日(水)に実施される。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

(注意) 前期終了科目の追・再試験は9月25日(金)～10月1日(木)に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日(火)～3月1日(月)に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、禅学実習、坐禅、その他実験実習を伴う科目は、追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机の上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は良(70点)以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間(前期)		定期試験実施時間(後期)	
1時限 9:20~10:20	4時限 14:40~15:40	1時限 9:30~10:30	4時限 14:30~15:30
2時限 10:50~11:50	5時限 16:10~17:10	2時限 11:00~12:00	5時限 15:50~16:50
3時限 13:10~14:10		3時限 13:00~14:00	

追・再試験実施時間(前期)
1時限 16:10~17:00
2時限 17:10~18:00

追・再試験実施時間(後期)
1時限 9:30~10:20
2時限 10:50~11:40
3時限 13:00~13:50
4時限 14:10~15:00
5時限 15:20~16:10

試験実施規程(抜粋)が掲載されている(P.38)ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

- ※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。
- ※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

イ. 1年次は学科毎にクラス制をとっている。

ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等にあたっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	”	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博 物 館 学 講 座	”	社会教育の場として博物館が十分に利用され、その目的、使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	”	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。（社会福祉士の基礎科目も修得可能）
社会教育主事講座	”	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

IX 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月20日	I期(前期)分納入済のこと。(II期分免除)
9月21日～11月30日	I期(前期)分・II期(後期)分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、I期(前期)学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

- (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
- (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で、同一学部の他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可する。

ただし、編入学者の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することができる。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

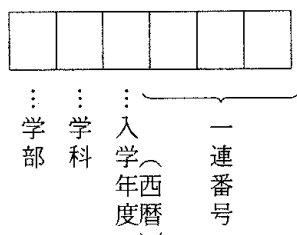
11. 学生氏名・保証人

- イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づき J I S 第 1 水準・第 2 水準文字で運用する。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

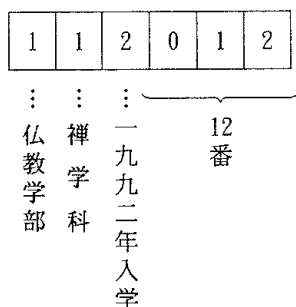
12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は 6 桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分



(例) 1992年度入学・仏教学部
禅学科12番の場合



学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

XI 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位に算入される。

ⅩⅡ 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

	種 類	要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口
届	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること （締切日は掲示参照） 	不要	不要	⑨
	卒 業 論 文 論 題 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 掲示板にて指示 	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 戸籍抄本添付 ・ 変更後 1 週間以内 	要	不要	⑤
	本 籍 地 （ 都 道 府 県 名 ） 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 住民票記載事項証明書添付 ・ 変更後 1 週間以内 	要	不要	
	保 証 人 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 在学誓書（保証書）添付 	要	要	
	保 証 人 住 所 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 変更後 1 週間以内 	要	不要	
死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 死亡が証明できる書類（写し可）添付 	/	要		
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 傷病による場合は、医師の診断書添付 ・ 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類および在留地届 ・ その他の場合は、保証人連署の理由書 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・ 4月10日までに提出すること 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり ・ 学生証添付 	要	要	

XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に応じ込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

※ 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講義内容目次

一般教育科目	(45)
保健体育科目	(47)
随意科目	(48)
基礎教育科目	(52)
専門教育科目	(54)
他学部履修科目	(69)

[巻末]

教職および資格講座

一般教育科目

人文分野	
宗教学 I (松本 皓一)	45
宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄)	45
宗教学 I (再クラス) (奈良 康明)	45
哲学 (久保 陽一)	45
論理学 (中村 友太郎)	45
文学 (篠原 壽雄)	45
社会分野	
法学憲法 (笠原 俊宏)	46
経済学 (浅田 統一郎)	46
社会学 (角家 文雄)	46
自然分野	
自然科学概論 (清水 善和)	46
人類学 (真家 和生)	46
心理学 (高橋 良博)	46

保健体育科目

保健体育理論 (森本 葵)	47
保健体育理論 (再クラス) (田中 佳孝)	47
保健体育理論 (再クラス) (牧野 茂)	47

随意科目

日本宗教文化史 (脇本 平也)	48
民間信仰論 (谷口 貢)	48
書道史 (谷村 義雄)	48
編集実務 (長谷川 孝)	48
英会話 II (P.A.ベンディネリィ・D.J.ノーラン T.J.コーガン・M.ピアス)	48
英語L L II (T.J.コーガン・岩山 義春)	48
ドイツ語F (栗原 万修)	49
ドイツ語F L L (初級) (小林 ゲアリンデ)	49
ドイツ語F L L (中級) (松岡 晋)	49
フランス語F (加藤 節子)	49
フランス語F L L (初級) (遠山 博雄)	49
フランス語F L L (初級) (M.マルタン)	49
フランス語F L L (中級) (M.マルタン)	49
中国語F (釜屋 修)	49
中国語F L L (初級) (小川 隆)	50
中国語F L L (中級) (戸張 嘉勝)	50
スペイン語F (ソニア・エレロ・ガルシア)	50
スペイン語F L L (初級) (ホワン・ナバロ)	50
スペイン語F L L (中級) (ホワン・ナバロ)	50
ロシア語F (杉山 秀子)	50
ロシア語F L L (初級) (池田 ガリーナ)	50

ロシア語F L L (中級) (池田 ガリーナ)	50
英語 (海外演習)	51

基礎教育科目

禅学序説 (石井 修道)	52
(平成2年度以前入学生:基礎仏教学)	
仏教学序説 (石川 力山)	52
(平成2年度以前入学生:基礎仏教学)	
仏教学序説 (伊藤 隆壽)	52
(平成2年度以前入学生:基礎仏教学)	
仏書解説I (伊藤 秀憲)	52
仏書解説II (片山 一良)	53
仏教語解説 (峰岸 孝哉)	53

専門教育科目

1年次以降履修科目	
宗教史 (松本 皓一)	54
日用経典 (皆川 広義)	54
中国古典語初級 (中村 璋八)	54
2年次以降履修科目	
禅学概論 (黒丸 寛之)	54
禅学思想史 (峰岸 孝哉)	54
禅学研究II (佐藤 秀孝)	54
禅学研究IV (原田 弘道)	55
禅宗史 I (田中 良昭)	55
(平成3年度以降入学生:中国禅宗史)	
禅宗史 II (原田 弘道)	55
(平成3年度以降入学生:日本禅宗史)	
禅学実習I (河村 孝道・小坂 機融 永井 政之・伊藤 秀憲)	55
(平成3年度以降入学生:坐禅I)	
禅学実習II (鈴木 格禅・伊藤 秀憲 永井 政之)	55
(平成3年度以降入学生:坐禅II)	
禅学講義 (小坂 機融)	56
(平成3年度以降入学生:禅籍講読I)	
禅学演習I (大谷 哲夫)	56
(平成3年度以降入学生:禅籍講読II)	
禅学演習II (峰岸 孝哉)	56
(平成3年度以降入学生:禅籍講読IV)	
宗典講読I (青龍 宗二)	56
(平成3年度以降入学生:禅学研究I)	
宗典講読II (大谷 哲夫)	56
(平成3年度以降入学生:禅学研究III)	
平成2年度以前入学生:	
宗典講義I (黒丸 寛之)	56
平成3年度以降入学生:宗典 (黒丸 寛之)	56
平成2年度以前入学生:	
宗典講義I (小坂 機融)	57

平成3年度以降入学生：宗典（河村 孝道）	57	中国古典語上級（小川 隆）	63
宗典講義Ⅱ（新井 勝龍）	57	ラテン語特講（野島 利彰）	63
（平成3年度以降入学生：禅籍講読Ⅲ）		宗教学概論（松本 皓一）	63
宗典講義Ⅱ（青龍 宗二）	57	キリスト教史（三小田 敏雄）	63
（平成3年度以降入学生：禅籍講読Ⅲ）		キリスト教概論（鶴岡 賀雄）	63
禅学特講Ⅰ（原田 弘道）	57	新宗教概説（井桁 碧）	64
禅学特講Ⅱ（黒丸 寛之）	57	各宗綱要（浄土学）（大谷 旭雄）	64
禅学特講Ⅲ（石井 修道）	57	仏教美術（中島 亮一）	64
禅学特講Ⅳ（鈴木 格禅）	57	仏教民俗学（和田 謙寿）	64
禅学特講Ⅴ（椎名 宏雄）	58	宗教教育（松本 皓一）	64
詩 偈（山口 晴通）	58	宗教行政（洗 建）	64
書 道（野村 宙弘）	58	仏教伝道概説（皆川 広義）	64
禅 美 術（海老根 聡郎）	58	仏教伝道研究（皆川 広義）	65
仏教概論（山内 舜雄）	58	青少年問題研究（和田 謙寿）	65
インド仏教史（田上 太秀）	58	青少年指導演習（和田 謙寿）	65
中国仏教史（佐藤 達玄）	59	哲 学 概 説（杖下 隆英）	65
インド仏教文化史（奈良 康明）	59	現代哲学概説（田島 節夫）	65
日本仏教史（山内 舜雄）	59	哲 学 史（中村 友太郎）	66
朝鮮仏教史（鎌田 茂雄）	59	哲 学 演 習（久保 陽一）	66
チベット仏教史（松本 史朗）	59	哲学史特講（杖下 隆英）	66
仏教教理史Ⅰ（印度）（袴谷 憲昭）	59	中国文学概論（篠原 壽雄）	66
（平成3年度以降入学生：インド仏教思想史）		中国文学演習（中村 璋八）	66
仏教教理史Ⅱ（中国）（岡部 和雄）	59	東洋思想研究（館野 正美）	66
（平成3年度以降入学生：中国仏教思想史）		心理学概論（篠原 英壽）	66
印度哲学史（金沢 篤）	60	禅 心 理 学（茅原 正）	67
（平成3年度以降入学生：インド哲学史）		仏教研究Ⅰ（池田 練太郎）	67
経典講読Ⅰ（石川 力山）	60	仏教研究Ⅱ（吉津 宜英）	67
（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅰ）		仏教研究Ⅲ（石川 力山）	67
経典講読Ⅱ（岡部 和雄）	60	仏教研究Ⅳ（伊藤 隆寿）	67
（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅱ）		パリー仏教史（片山 一良）	67
仏典演習Ⅰ（佐藤 達玄）	60	演習Ⅰ・Ⅱ（石井 清純）	68
（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅳ）			
仏典演習Ⅰ（吉津 宜英）	60		
（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅳ）			
仏典演習Ⅱ（伊藤 隆寿）	60		
（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅲ）			
仏典演習Ⅱ（岡部 和雄）	61		
（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅲ）			
仏典研究（木村 誠司）	61		
原始仏教（片山 一良）	61		
仏教特講Ⅰ（池田 練太郎）	61		
仏教特講Ⅱ（納富 常天）	61		
仏教特講Ⅲ（鎌田 茂雄）	61		
仏教特講Ⅳ（太田 久紀）	61		
仏教特講Ⅴ（石川 力山）	61		
仏教特講Ⅵ（田上 太秀）	62		
パリー仏教特講（片山 一良）	62		
外国語仏書演習（松本 史朗）	62		
パリー語初級（福田 孝雄）	62		
パリー語上級（福田 孝雄）	62		
サンスクリット語初級（奈良 康明）	62		
サンスクリット語上級（金沢 篤）	62		
チベット語初級（松本 史朗）	63		
チベット語上級（木村 誠司）	63		

一般教育科目

人文分野

宗教学 I

松本 皓一

宗教に対する全般的理解を深め、仏教（禅）に対する基礎的学識をつちかう。特に現代社会の中で宗教はどんな役割を果たしうるか、という問題を中心にする。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕『宗教学 I』（更生社）

宗教学 I（再クラス）

岡部 和雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教の歩んだ道 I』（東京書籍）

宗教学 I（再クラス）

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教のおしえ』（東京書籍）

哲学

久保 陽一

人間は生れつき、知識の営みをするように定め

られている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕その都度指示する。

論理学

中村 友太郎

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

文学

篠原 壽雄

より知的生活を目指す人間は、書かれたもの（書物）を正しく読み味わうことが要求される。このために多くの作品に直接あたって、その読み方などを学びとることは何にもまして大切である。そこでこの講座では、これからの研究に欠くことのできない基礎教養を目ざして、中国の古典をえらんで文学として鑑賞すると共に、その訓読法を学び、将来、漢訳仏典、禅録を研究する一助にしたい。

〔教科書〕『論語集註』（明治書院）¥1,500
プリント、他は随時示す。

社 会 分 野

自 然 分 野

法 学 憲 法

笠 原 俊 宏

前半では、主としてわが国の実定法全般について概説し、また、後半では、日本国憲法における人権と統治機構について概説する。とくに後者については、折にふれ、改憲論および護憲論が展開されているが、それらについても客観的な立場から論評したい。

〔教科書〕松村・小林著『法学・憲法』（八千代出版）¥3,500
杉林信義著『法と法術』（富山房）
¥2,800

経 済 学

浅 田 統一郎

本講義では、近代経済学の平易な入門書をテキストとして使用し、経済学的な考え方を養うことを目的として講義を進める。とりあげる主なテーマは、需要と供給の法則、国民所得、財政金融政策、景気循環、国際貿易などである。意欲ある諸君の受講を歓迎する。

〔教科書〕伊藤元重『入門経済学』（日信評論社）

社 会 学

角 家 文 雄

社会学の基礎理論と、その応用として教育社会学、マスコミ社会学を講義する。

〔教科書〕角家文雄著『現代社会の諸相』（学陽書房）¥1,545

自然科学概論

清 水 善 和

現在、地球環境の破壊とその保全が、世界的な課題となっている。本講義では、Ⅰ. 環境破壊（CO₂の温室効果、オゾン層破壊、酸性雨等）、Ⅱ. 放射能汚染（原発の事故、廃棄物等）、Ⅲ. 自然保護（熱帯林の破壊、砂漠化、種の保護等）の3つの観点から地球環境問題を取りあげ、自然と人間とのかかわり合いについて考える。

〔教科書・参考書〕なし

人 類 学

真 家 和 生

本講義では、まず、①人間の捉え方について解説し、個人の意識を越えて人類という集団を取り扱う基礎的事項について概説する。②生命発生から現在のヒトが形成されるまでの生物および人類の進化過程を通覧した上で、現在および近未来のヒトの形態と機能の変容を解説する。③ヒトの適応能と変異について概説した上で、現在、地球上の諸々の環境下で人類がどのように生活しているかを概説する。④生態系の中における生物としてのヒトと、高文化・技術を持つ人間の、自然界における位置について概説する。これら人間理解のための基礎事項を準備した上で、⑤個人の問題に立ち返り、現代社会において個人を取り巻くさまざまな問題を取り上げて討議する。

〔教科書〕授業中に参考図書を示す。

心 理 学

高 橋 良 博

心理学を初めて学ぶ者を対象として、なるべく日常的な問題に即しながら、心理学の主要な領域と、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらう事を目的に講義を進めてゆく予定である。

また、講義の中で随時供覧実験などを折り込みながら心理学研究の雰囲気伝えたい。

〔教科書〕中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）¥1,500

保 健 体 育 科 目

保健体育理論

森 本 葵

体力づくり

〈若年層における体力づくりの必要性〉

〈体力のメカニズム〉

〈体力づくりの方法〉

〈体力づくりにかかわる疲労の問題〉

〈疲労の判定法〉

オリンピックゲーム

〈歴 史〉

〈問題点〉

〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』

（日体協）

保健体育理論（再クラス）

田 中 佳 孝

日常生活及びスポーツ・レクリエーション時に於ける傷害の救急処置法。並びに健康な生活をする為に必要な栄養学的知識について、食物とビタミンを中心に講義を行なう。

保健体育理論（再クラス）

牧 野 茂

健康の正しい認識、健康を阻害する因子、健康・体力づくりを中心テーマとし、具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

随 意 科 目

日本宗教文化史

脇 本 平 也

教科書その他の参考文献を読み進めながら、日本宗教文化史における夢の位置や意味について考えてみる。

〔教科書〕西郷信綱『古代人と夢』（平凡社）

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

書道史

谷 村 義 雄

文字の発生から書体の変遷、書風の変化、書法の成立の過程を、まず中国に於ける書の歴史を辿り、また日本での独自の展開を概観する。本学では書道科の教職課程として開講しているので、書道史を中心に講義する。従って美術史も内容は書道史の延長とする。

〔参考書〕神田喜一郎著『中国書道史』

（岩波書店）¥5,800

『書の歴史』（二玄社）¥1,800

編集実務

長谷川 孝

情報社会の今、多様な情報を主体的に選択し活用できる力が求められ、さらに自分から情報を発信できる能力も大事です。自分の中にある知識や体験、意見や批判、感動や思いなどを、さまざまな社会の出来事や状況との関係の中でしっかりと掴みとり形を与えて他者に伝わるように表現することです。この講義では、物書き・編集者としての私の体験を語りながら、文章と印刷による表現（メディア）の担い手に必要な知識・技能や心構えと、なぜ・なにを・どう「伝える」のか、を考えていきます。また、個人のミニ新聞（雑誌）を作ってもらい、作り方とともに「ものごとを見る目」を育ててほしいと思っています。

〔参考書〕長谷川 孝編著『新聞をつくろう』

（さ・え・ら書房、¥1,236）を随時、使用します。

英 会 話 II

P. A. ベンディネリィ・D. J. ノーラン
T. J. コーガン・M. ピアス

全学で6クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

英語L L II

T. J. コーガン・岩 山 義 春

英語L L Iのアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語L L Iを履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

（岩山）聞き取りと表現力の向上をめざします。

毎週話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありません。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

ドイツ語 F

栗原 万 修

日本とドイツの民話を中心に世界の民話をドイツ語で読む。できるだけやさしいものからはじめ、ドイツ語の力がつくようにしていく。いろいろな民俗学的比較なども考察したい。テキストは、プリントで配布する。

ドイツ語 F L L (初級)

小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 F L L (中級)

松 岡 晋

本講義は F L L (初級) 終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、もちろん受講できる。また初級・中級の両方を同時に履修してもかまわない。

教材は、カセット・テープを予定しているが、受講者の希望により変更する場合もありうる。ドイツ語のヒアリングと基本的構文を用いての会話能力を習得したい意欲的な学生の受講を希望する。
〔教科書〕プリント

フランス語 F

加藤 節 子

やさしいテキストを使ってフランス文学史を読む。17世紀から始めて19世紀頃までの文学とその社会背景を概観していく予定である。時間があれば大作家や詩人たちの作品の抜粋を読んで作品鑑

賞も併せてやってゆきたい。

〔教科書〕プリント

フランス語 F L L (初級)

遠 山 博 雄

はじめてフランス語を学ぶ学生については、発音練習と基本文型の反復修得を中心に勉強していきます。すでに通り文法を終えている学生については、まず初等の知識を口と耳で定着させてから先に進みます。いずれにせよ声を出し、耳を慣らすことから始めます。ビデオ等も活用し、簡単な会話ができるようになることを目的とします。
〔教科書〕大賀正喜『フランス文法耳から口へ』
(第三書房) ¥824

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。
〔教科書〕『Entrée Libre』

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕『BIENVENUE EN FRANCE 1』

中国語 F

釜 屋 修

中国語一年以上の学習体験をもつ人を対象とする。現代中国の世相を反映したミニ小説(一分間小説)を教材とし、読解力の強化を目標とし、あわせて日常基本会話の練習も行う。中国語と中国に関心を持つ諸君の参加を“熱烈歓迎”!

〔教科書〕釜屋 修・王迺珍共編『北京文学風景 — 一分間小説集』(三修社)

中国語 F L L (初級)

小 川 隆

ビデオやテープを使って、会話と聴き取りの訓練をします。中国語 I 既習でいどの基礎力が必要です。耳と口がヘトヘトになるような授業にしたいと思っています（もちろん皆さんの耳と口です！）。

また、時には中国映画を鑑賞して、中国の社会や生活のようすをご紹介しますつもりです。

〔教科書〕皆さんの希望と実力に応じて選びます。

中国語 F L L (中級)

戸 張 嘉 勝

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。何本かの現代中国映画（ビデオ）を見て、ききとり及び書きとり練習をし、さらにその内容についての会話練習をする。

〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配ります。

スペイン語 F

ソニア・エレロ・ガルシア

正規授業の 1・2 年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリートーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。

〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの——最新版のアガニョーク、諷刺漫画（クロコディル）、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげ、同時に、現代ソ連社会の動向を探っていきたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (初級)

池田 ガリーナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕教場にて指示。

ロシア語 F L L (中級)

池田 ガリーナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独得な生の言いまわしや、日常会話のイントネーションや平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に準備したい。

〔教科書〕教場にて指示。

英 語（海外演習）

この授業科目は、カリフォルニア大学・クィーンズランド大学・ブリティッシュコロンビア大学・エクセター大学における短期留学セミナーでの四週間に及ぶ現地演習を中心として行なわれる英語随意科目である。受講対象学生は、全学部の1年次生から卒業年次生までとする。

現地演習後に四大学より受講生の成績・評価等が出される。仏教学部、文学部、短期大学の受講生には単位認定がなされる。

基礎教育科目

禅学序説

(平成2年度以前入学生：基礎仏教学)

石井 修道

平成3年度の入学生からはじまった新設科目で、唯一の禅学科のみにある科目である。従来の釈尊伝、両祖伝および禅籍解題をも含め、今後禅学科で学んで行くための基礎的知識や研究方法をよくよく咀嚼しながら自分のものにして欲しい。さらに二学年以降の専門の選択コースについても個人的な要求に応じて指導したいので、気軽に質問して欲しい。もし時間が不足すれば、研究室までたずねてきて欲しい。駒沢大学図書館は禅学研究の資料の宝庫であるから、授業中に話題として取り上げた書物は実際に手に触れるように希望する。

〔教科書〕入矢義高訳注『臨濟録』(岩波文庫) ¥450, 鏡島元隆訳注『道元禅師語録』(講談社学術文庫) ¥700
石井修道『中国禅宗史話』¥3,605
中村璋八・石川力山・中村信幸共著『典座教訓・赴粥飯法』(講談社学術文庫) ¥740

仏教学序説

(平成2年度以前入学生：基礎仏教学)

石川 力山

この授業の目標は、はじめて仏教を学ぶにあたり、その基礎的立場を確立することにあります。そのためまず、仏教とはどのような生き方を説く宗教であるかを、他の世界の諸宗教との比較を通して明らかにし、仏教思想の基本的枠組を理解することを当面の目的にします。そして、これを専門的に研究するための研究分野や研究方法を検討した上で、より深い仏教理解のためにどのような語学を身につけ、いかなるテキストを読んだらよいかについても触れ、さらにアジア世界における仏教の歴史的・思想的・文化史的展開についても概観したい。

〔教科書〕駒沢大学仏教学研究室編『宗教学Ⅰ』(更生社) ¥2,369

〔参考書〕水野弘元著『仏教要語の基礎知識』(春秋社) ¥1,600
中村 元等編『岩波仏教辞典』(岩波書店) ¥5,800

仏教学序説

(平成2年度以前入学生：基礎仏教学)

伊藤 隆壽

本講座は仏教入門講座として設けられたものである。これから仏教を学ぶ上での諸問題をできるだけ平易に述べたいと思う。仏教とはどのような教えなのか、仏教とは一体何なのか、という問題は、仏教を学ぶ者の永遠のテーマであろう。それを考えてゆく上での基本は、まず仏教の教祖である釈尊について、正しい理解をもつことが大切である。

そこで下記の教科書に基づき、釈尊の生涯をたどり、その教えの特色を知ることから始めたいと思う。

〔教科書〕奈良康明編著『仏教の実践』(東京書籍) ¥1,500

〔参考書〕授業において紹介する。

仏書解説Ⅰ

伊藤 秀憲

仏書解説Ⅰは禅籍の解説である。この講座では、漢文に親しむということも考えて、禅籍244部について解説した『禅籍志』二巻を読みつつ講義を進めて行きたい。本書で不足する禅籍については、補足して説明する。

〔教科書〕『禅籍志』二巻 担当者でコピーする。

〔参考書〕『禅家語録Ⅱ』(筑摩書房)

所収「禅籍解題」

仏書解説Ⅱ

片 山 一 良

仏教の根本たる原始仏教ないし伝統仏教の「三蔵」（経・律・論）について解説し、その基礎知識の獲得を目指したい。

〔参考書〕 随時指示。

仏教語解説

峰 岸 孝 哉

ここでは仏教語のうち、禅仏教の基本語をとりあげ、順次解説していく。これは当然禅仏教の性格、世界観を探る問題でもあるので、具体的に文献の講読を通して考えてみる必要もあろう。したがってテキスト・参考書はその都度指示する。

専門教育科目

1年次以降履修科目

宗教史

松本 皓一

今年度は特に日本を中心に、人間と宗教の関わり合いを歴史的にのべてみる。宗教史の講義名であるが、内容としては信仰の歴史というものに近い。特に教科書は指定せず、必要に応じて参考文献、資料等は講義中に指示する。

日用経典

皆川 広義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典について回向文をふまえて解説し、宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。

中国古典語初級

中村 璋八

中国の古典は、経・史・子・集、すなわち、儒家の経典、歴史書、経典以外の思想家の書、文学作品の四つに分類され、その書の成立年代も先秦から明・清まで二千五百年余りの長期に及んでいるが、それらの若干異なる思想、歴史、文学の書を歴史的背景をも考慮しながら日本の伝統的な訓読法で読み、漢訳仏典、中国仏典、日本仏典の解説にも役立つような基礎的学力を付けるようにして行きたい。また、中国思想史、中国文学史の一助ともしたい。

〔教科書〕『中国文学思想通史』（明治書院）

¥1,600

2年次以降履修科目

禅学概論

黒丸 寛之

釈尊の成正覚を起原として、インド・中国・日本に展開した禅仏教の歴史と思想について述べ、禅の修証については道元禅師の著述を中心として講述する。また、本年度は、近世における禅者としての良寛の著作も併せて読むこととしたい。講義はノートとプリント配布によって行う。

禅学思想史

峰岸 孝哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』（講座道元Ⅱ）

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

広瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

禅学研究Ⅱ

佐藤 秀孝

本講座は禅学に関する研究でも特に実践部門をその対象としている。そこで各種の清規などに載る坐禅儀・坐禅箴を概観し、さらに道元禅師の普勧坐禅儀や瑩山禅師の坐禅用心記へと進みたい。すなわち中国・日本の禅宗祖師の坐禅観の推移を通して、禅宗における実践の構造を明らかにするものである。なお、講義に必要な資料は、その都度、コピーなどで配布したい。

禅学研究Ⅳ

原 田 弘 道

本講座においては、初期日本禅宗史の一側面をとりあげる。

心地覚心が道元禅師より菩薩戒を受けてから始まる、曹洞宗と法灯派との交渉について、その歴史、思想の変遷をめぐり、歴史的意義を明らかにしてゆく。

禅宗史Ⅰ

(平成3年度以降入学生：中国禅宗史)

田 中 良 昭

禅宗史Ⅰは、中国禅宗史をその内容とする。釈尊以来仏教の実践道とされた禅が中国へ伝来し、菩提達摩を初祖とする系統が、中国固有の思想や他の仏教諸宗と交渉しつつ、独自の中国禅宗を形成し、後には中国仏教の主流を占めるまでに発展した。そこで授業では、達摩渡来以前を導入とし、以下達摩の渡来から禅宗の成立までの成立の歴史と、禅宗が五家七宗に分かれて各々その特色を発揮する発展の歴史とを考察する。

〔参考書〕『禅の歴史—中国—』〔講座禅第三巻〕
(筑摩書房)

禅宗史Ⅱ

(平成3年度以降入学生：日本禅宗史)

原 田 弘 道

禅宗史Ⅱの内容は日本禅宗史である。

我国に伝来した禅は、その主流となって類型を異にするものが五つあったと考えられる。これらを中心にして禅宗の発展の歴史を考察する。内容は伝来、受容・発展の実態とその思想史的意義の両面からとりあげてゆく。

〔参考書〕『禅の歴史—日本—』〔講座禅第四巻〕
(筑摩書房)

鈴木泰山著『禅宗の地方発展』
(吉川弘文館)

禅学実習Ⅰ

(平成3年度以降入学生：坐禅Ⅰ)

河 村 孝 道・小 坂 機 融
永 井 政 之・伊 藤 秀 憲

禅学は坐禅を根本とする宗教の学問的作業である。しかし学究のみではあくまでも万全ではない。究極はむしろ禅学の根本を実修する坐禅にこそ求められなければならない。禅学する者に坐禅が常に厳しく実修されないなら真の禅学とは言えない。従って本講座は坐禅堂における入堂・坐禅・経行・提唱・出堂の一切が厳粛に遂行されるが、このためには次の基本的な心構えが必要である。

1. 時間厳守
(始鈴十分前に全員入堂坐禅、遅刻不許)
2. 威儀服装の整備
(規定の作法に従い厳粛かつ清楚)
3. 懈怠厳禁
(自ら怠惰を戒め毎時間真摯に精励する)

なお、(1)追再試等による救済措置は全くない。
(2)特に新学期最初の授業は、坐禅堂における進退作法並びに席次等重要事項を指示するので必ず出席すること。

〔教科書〕『坐禅講本』(更生社)

禅学実習Ⅱ

(平成3年度以降入学生：坐禅Ⅱ)

鈴 木 格 禅・伊 藤 秀 憲
永 井 政 之

実習時間の前半は只管打坐、経行を挿んで後半は『坐禅用心記』の提唱。授業の実施要領および基本的な心構え等については、「禅学実習Ⅰ」に全く同じ。科目の性格上、遅刻を認めず、追再試やレポート提出等による救済措置は、一切講じられない。また、坐禅堂内およびその周辺における、服装・態度・言語・動作等の厳粛・整齊なるを、きびしく要求するから、これらのことを予めよく承知しておくこと。

なお、学年度最初の授業には、席次の決定や必要な諸注意をするから、全員かならず出席受講すること。

〔教科書〕『坐禅講本』(更生社) ¥3,000

禅学讲义

(平成3年度以降入学生：禅籍讲読Ⅰ)

小坂 機 融

中国禅宗成立初期の語録中、『二入四行論』・『絶観論』・『六祖壇経』・『参同契』・『宝鏡三昧』・『証道歌』等について順次講義する。まずこれら語録の成立流伝の歴史的背景を考察し、その上で当該語録について講じ、各祖師の挙揚した宗義宗風を明らかにする。今年度は、『参同契』・『宝鏡三昧』を中心にして講義する。

〔教科書〕『参同契宝鏡三昧纂解』(教場で指示)

〔参考書〕『曹洞禅講義』、『講座禅第六巻』

禅学演習Ⅰ

(平成3年度以降入学生：禅籍讲読Ⅱ)

大谷 哲 夫

従容録・碧巖録・無門関を順次に演習して、中国禅者の体得せる悟道の世界を把握しながら、公案のもつ意義と中国禅の特異性を追求してゆく。本年は従容録の演習。

〔教科書〕講義の際に指示する。

〔参考書〕『曹洞禅講義』

禅学演習Ⅱ

(平成3年度以降入学生：禅籍讲読Ⅳ)

峰 岸 孝 哉

『永平元禅師語録』を読む。

本書は延文三年(1358)、永平寺六世曇希によって刊行されて以来、江戸時代までに数回の版を重ねて、広く読まれてきた「永平道元」(1200~53)の語録である。しかし道元の語録としては『永平和尚広録』(通称『永平広録』)十巻がすでに存在するわけで、これに対し、本書は『永平元禅師語録』(通称『永平略録』)として流布してきたわけである。この本書の成立については後述することとして、いわば『永平広録』の抄録としての『永平略録』の講読を通じて、道元の世界を考えてみたい。テキストは教場で指示する。

〔参考書〕鏡島元隆『道元禅師語録』(講談社学術文庫)、大谷哲夫他『永平広録』上巻、下巻、大本山永平寺(一穂社)

宗典讲読Ⅰ

(平成3年度以降入学生：禅学研究Ⅰ)

青 龍 宗 二

禅学研究Ⅰは禅の教義が課せられているので、修証論を中心に講義を行ない、宗典讲読Ⅰの受講生のために、『学道用心集』『修証義』を順次讲読しながら、本証妙修の教義面の把握に力点を置く。教科書、参考書は開講のとき指示する。

宗典讲読Ⅱ

(平成3年度以降入学生：禅学研究Ⅲ)

大 谷 哲 夫

古来『信心銘』は禅の真髓を示したものとして珍重せられ、禅思想史上でも重視されている。今年度は特に『信心銘拈提』を基本的底本として、他の先人先学の『信心銘』に関する注釈とを比較検討しながら讲読していく。

〔教科書〕詳細については開講時に指示する。

〔参考書〕適宜プリント等を配布する。

平成2年度以前入学生：宗典讲読Ⅰ

黒 丸 寛 之

道元禅師の著『正法眼蔵』の中から、本年度は「十方」「見仏」「遍参」「眼睛」「家常」の諸巻を讲読する。講本とする『正法眼蔵』は、既刊本の何れでもよいから、各自に必ず用意すること(コピーでも差支えない)。

平成3年度以降入学生：宗典

黒 丸 寛 之

道元禅師の著『正法眼蔵』と、瑩山禅師の著『伝光録』について講述する。講本は開講のときに指定する。

平成2年度以前入学生：宗典講義Ⅰ

小坂機融

道元禪師の主著『正法眼蔵』を講義する。本年度は、初め『正法眼蔵』の成立・編輯史の概容について講じ、次いで「辨道話」を講読する。

〔教科書〕『道元禪師全集』第二巻拾遺「辨道話」(春秋社)

〔参考書〕河村孝道著『正法眼蔵の成立史的研究』(春秋社) ¥21,000

『正法眼蔵註解全書』第一巻
岸沢惟安著『正法眼全講』第一巻

〔参考書〕石川素童著『伝光録 白字弁』

禅学特講Ⅰ

原田弘道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禪の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

平成3年度以降入学生：宗典

河村孝道

道元禪師の主著『正法眼蔵』を講義する。本年度は昨年度に引続いて『行持』巻より進める。

〔教科書〕『正法眼蔵』『道元禪師全集』第一巻(春秋社)

〔参考書〕『正法眼蔵註解全書』(第四巻)

禅学特講Ⅱ

黒丸寛之

道元禪師と『法華経』について、『正法眼蔵』の所説を中心として講述し、併せて良寛の「法華転」「法華讃」を読む。主な講本となる『正法眼蔵』は、既刊本の何れでもよいから、各自に必ず用意して受講されたい。

宗典講義Ⅱ

(平成3年度以降入学生：禅籍講読Ⅲ)

新井勝龍

曹洞宗で、三尊仏中の一仏祖として仰がれる、太祖瑩山禪師の主著『伝光録』について講義する。

はじめに太祖の生涯と伝光録提唱の事情、太祖の著述全体の中における本書の意義、及びその書誌的考察から構成や中心思想について解説する。

その後、本文の講義に入る。

〔教科書〕光地英学著『冠註 瑩山禪師 伝光録』

〔参考書〕石川素童著『伝光録 白字弁』
光地英学著『瑩山禪』

禅学特講Ⅲ

石井修道

平成3年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禪の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禪の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕『大慧書』(筑摩書房) ¥3,500

宗典講義Ⅱ

(平成3年度以降入学生：禅籍講読Ⅲ)

青龍宗二

この講座は曹洞宗の二大宗典の一つである太祖・瑩山禪師の主著『伝光録』の講義が課せられている。テキストによって講義を進めるが、特に宗義の把握に力点をおく。

〔教科書〕光地英学著『冠註 瑩山禪師 伝光録』

禅学特講Ⅳ

鈴木格禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益(1649~1708)のことであり。損翁は面山瑞方(1683~1769)の師であり、面山の宗教的人格形

成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が、一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕『統曹洞宗全書（法語・歌頌）』

P. 411～P. 445までをコピーすること。

禅学特講V

椎名宏雄

禅宗カナ法語の講読

わが近世の曹洞宗学を代表する月舟宗胡・徳翁良高・天桂伝尊・指月慧印という四人の禅匠たちが残したカナ法語の作品を読んでゆく。

深く難解な仏教思想を道俗に対して平易に説きあかそうとして生まれたカナ法語の作品は、漢文の語録にくらべて具体的であり、思想表現が豊かであるという特長をもつ。上記の禅匠たちは、いったい仏教や道元禅をどのように語り、いかに布教しようとしてつとめたのだろうか。こうした点をじっくりと味わってみたい。

〔教科書〕プリント資料を無料で配布する。

詩 偈

山口晴通

中国および日本の漢詩は、我々の精神生活において、はかり知れないほどの大きな影響を与えている。

ことに禅門にあっては、参禅者の修行における、心情吐露の表現方法として、また、禅門の教義宣揚法として活用されているのである。

したがって、作詩の基礎を知ることは、各自が生涯にわたって、重要な意義を持つことであろう。

本講座では、具体的に漢詩を鑑賞しながら、初歩的な作詩法を学習せんとするものである。

漢和辞典の種類については、授業中に指示説明をする。

〔教科書〕山口晴通著『詩偈入門（上）』

（曹洞宗宗務庁）¥1,000

〔参考書〕『漢和辞典』

書 道

野村宙弘

王羲之の蘭亭序をはじめ、各種古典の臨書による、実技の指導を行う。

書道実技の為、墨、硯、筆、文鎮、下敷、半紙等の文房四宝の用意が必要。

（正しい用筆法、正しい墨のすり方等、初歩的な基礎勉強の指導と、かんたんな書道史の説明を行う）

〔教科書〕王 羲之『蘭亭序』（清雅堂）¥360

禅 美 術

海老根 聰 郎

日本の中世時代（鎌倉、南北朝、室町時代）の絵画の流れを、画家を中心としてのべる。とりあげる画家は、黙庵、良全、周文、雪舟などである。（毎回スライドを使用する。）

仏 教 概 論

山内 舜 雄

先づ仏陀観・仏身論の発達・形成という仏教の基本構造を詳説し、次いで各宗の教義を、概ね歴史的展開に沿って詳述する。すべてノート講義とし、教科書を使用しない。

インド仏教史

田上 太 秀

1. 仏教の起源と発展
2. 経典の成立・種類・思想など。
3. 仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕田上太秀『禅の思想』（東京書籍）
¥1,009

『禅語散策』（東京書籍）¥1,000

中国仏教史

佐藤達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説－中国篇』（平楽寺書店）

インド仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全体的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰ－インド、東南アジア－』（山川出版社）
奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）

日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

朝鮮仏教史

鎌田茂雄

われわれ日本人は、あまりに近い国、朝鮮の文

化や宗教についての知識がほとんどないといってよい。日本の古代仏教の実相を把握するためには、朝鮮仏教史の知識は不可欠である。同じ漢訳大蔵経にもとづきながら、中国、朝鮮、日本の仏教には、それぞれ相違がある。本講義では朝鮮における仏教の展開過程を、中国や日本の仏教と対比しつつ、その特色を明らかにすることに主眼をおきたい。

〔教科書〕鎌田茂雄著『朝鮮仏教史』（東京大学出版会）¥2,400

〔参考書〕鎌田茂雄著『朝鮮仏教の寺と歴史』（大法輪閣）¥1,900

チベット仏教史

松本史朗

チベット仏教は、教団史的にも思想的にも、インド大乘仏教の正系を受け継ぐ最も正統的な仏教であると評価されている。従来の我が国における仏教研究は、中国仏教においてなされた様々の仏教理解に大きく影響されてきたが、現在では、大乘仏教を研究するためには、中国仏教だけではなくチベット仏教をも学ぶ必要があると考えられるようになった。この講義では、このような観点から、チベット仏教の歴史と思想を概説してみたい。

〔参考書〕山口瑞鳳著『チベット 下』（東京大学出版会）¥2,800

仏教教理史Ⅰ（印度）

（平成3年度以降入学生）

インド仏教思想史）

袴谷憲昭

インド仏教史の展開を通史的に辿りながら、各時代の最も重要な思想問題を、具体的な文献を検討することによって重点的に考えてみることにしたい。かかる文献の指示は、適宜教場にて行うので、あまり欠席はしないようにしてもらいたい。

仏教教理史Ⅱ（中国）

（平成3年度以降入学生：中国仏教思想史）

岡部和雄

インド仏教がどのようにして中国仏教へと展開していくかは、さまざまな観点から分析・研究されなければならないが、ここでは教理の歴史的展開を中心としてこの問題を考えてみたい。

〔参考書〕鎌田茂雄著『中国仏教史』〔第一巻～第四巻〕（東大出版会）
任継愈主編『中国仏教史』〔第一巻～第三巻〕（中国社会科学出版社）

印度哲学史

（平成3年度以降入学生：インド哲学史）

金 沢 篤

ヴェーダ時代から現代にいたるまでのインド思想の流れを、個々の事例に即して、概観する。

〔教科書〕早島鏡正他著『インド思想史』（東京大学出版会）¥3,000

〔参考書〕前田専学著『インド的思考』（春秋社）¥2,000

経典講読Ⅰ

（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅰ）

石 川 力 山

大乘仏教初期の代表的経典である『維摩経』の中の「弟子品」を講読する。本経は早くより漢訳がなされ、大乘菩薩の実践道を説いた経典として、中国・日本の仏教界でさかんに用いられ、特に禅宗において高く挙揚されたが、道元によって説主維摩居士が「道未尽の法おほし、学未到すくならず」（『眼蔵』三十七品菩提分法）と批判される問題の書でもある。こうした課題も併せ考えながら、仏の十大弟子と居士との関係を綴る「弟子品」を講読したい。

〔教科書〕テキスト・プリント配布

〔参考書〕長尾雅人『大乘仏典』（中央公論社、世界の名著2）¥1,340

経典講読Ⅱ

（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅱ）

岡 部 和 雄

大乘経典とくに初期に成立した般若、維摩、法華などの諸経には大乘思想が横溢している。この経典講読Ⅱではそれら的大乗諸経から適切なパッセージをとりだし、講読する。大乘仏教がそれ以前の仏教とどのように相違するか、何をどう受けついで発達させたかを考える。

漢訳を中心とするが、梵文・パーリ文やチベット訳についても必要があれば言及する。

〔教科書〕テキストはその都度、配布する。

仏典演習Ⅰ

（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅳ）

佐 藤 達 玄

天台教学の綱要書性格として広く読まれていく諦観の『天台四教儀』を講読して、智顛の佛教理解の方法論を考究したい。

仏典演習Ⅰ

（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅳ）

吉 津 宜 英

高麗の諦観の著わした『天台四教儀』をテキストとする。本書は天台の教判の大綱である五時八教を概説したものである。そのため結果的には天台の法華円教を頂点とする天台教学を学ぶことにはなるが、その円教の基礎構造として三蔵教、通教、および別教の三教が存在し、アビダルマ仏教、般若空観、華嚴教学なども学ばざるをえない組織となっている。従って本書は天台教学への入門書であることはもちろんのこと、広く仏教学への基礎的典籍として活用されてきた。受講者は大正蔵46巻P.774からP.780までと、国訳一切経話漢撰述部・諸宗部14のP.61からP.90までをプリントし、ノート一冊を用意して出席してほしい。

〔参考書〕教場で指示する。

仏典演習Ⅱ

（平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅲ）

伊 藤 隆 寿

中国隋代の吉蔵の撰述した『三論玄義』を講読する。吉蔵は、無所得空を立場とすることを表明するが、根底には道・理の哲学を据えている。そこに、中国における仏教理解の典型が示されており、後世にまで多大な影響を及ぼした。最近の仏教学の成果を踏えながら、批判的に扱う。

〔教科書〕『大正大蔵経 第45巻』1～14頁、各自コピーのこと。

〔参考書〕『三論玄義』（岩波文庫及び大蔵出版）

仏典演習Ⅱ

(平成3年度以降入学生：仏典講読Ⅲ)

岡部和雄

『天台小止観』を講読する。近年、『童蒙止観校釈』という小冊子が北京の中華書局から刊行されたので、これをテキストに使用する。

〔参考書〕関口真大訳注『岩波文庫本』

仏教特講Ⅰ

池田練太郎

東大寺の凝然(1240～1321年)が29歳のときに著わした『八宗綱要』を手掛りにして、仏教の思想と歴史の問題を、現在の仏教学の視点から考えていく。

〔教科書〕龍谷大学編『講本八宗綱要鈔』(永田文昌堂) ¥800

仏典研究

木村誠司

後期インド仏教およびチベット仏教の研究は、仏教論理学 — ダルマキールティ Dharmakiirti (600-660)の思想 — に関する知識なしでは、不可能な面がある。本講義では、シチェルバッキー Th. Scherbatsky の Buddhist Logic を随時参考にし、さらに、チベット仏教中最高の仏教者である ツォンカパ Tsonkha pa (1357-1419) の論理学に関する講義をまとめた『量の大備忘録』 Tshad ma'i brjed byang chen mo を基本資料とし、インド・チベットにおける仏教論理学について、出来るだけ詳細かつ丁寧な考察してみたい。

〔教科書〕Buddhist Logic Vol. I, II, Dover Pub. Inc., Tshad ma'i brjed byang chenmo, The collected works of rJe Rin-po-che, vol.23

仏教特講Ⅱ

納富常天

鎌倉仏教の成立とその展開を考察する。

〔参考書〕納富常天著『鎌倉の仏教』(かまくら春秋社) ¥1,800

仏教特講Ⅲ

鎌田茂雄

華嚴教学を講義する。天台教学と並んでもっとも難解な華嚴教学は直接講義をきかないと理解できないものである。

〔教科書〕鎌田茂雄著『華嚴五教章』(大蔵出版) ¥3,000

〔参考書〕鎌田茂雄著『華嚴の思想』(講談社学術文庫) ¥680

原始仏教

片山一良

仏教の源泉を原始仏教という。大乘であれ小乗であれ、そのすべては後代の呼び名に過ぎず、どの教えも原始仏教から出発している。釈尊が示されたものは、縁起、四諦の説、あるいは無常・苦・無我の三相についてであった。戒律を保ち守ることに始まり、少欲知足の生活をつねに勧められた。そこには智慧と慈悲の教えがあるのみで、何も飾りが見られない。この講義では、そうした原始仏教の基本的な教理、思想を紹介する。

〔参考書〕『原始仏教・1』(長部「梵網経」)(中山書房)
『南伝大蔵経・3』(律蔵「小品」)(大蔵出版)

仏教特講Ⅳ

太田久紀

成唯識論 卷一、二、三巻 講読。

阿頼耶識説を学ぶ。

〔教科書〕『選註成唯識論』を使用するが、その他何でも可。

仏教特講Ⅴ

石川力山

この講義は、「仏教と現代」という課題のもと

に、「部落差別」をはじめとするさまざまな差別問題を、人権という視座から基本的認識を確立することを意図して設けられた。

今年は「部落差別問題」を中心とし、その他の障害者差別、人種・民族差別等について、特にこうした差別観念の成立に少なからず関わった仏教思想の問題もあわせ課題として検討し、反差別の立場を確立する一助としたい。(今年はまだ、折々の新聞報道に見られる人権・差別問題についても、併行して検討の教材に使用しますので、新聞一紙は常時講読するようにして下さい。)

仏教特講VI

田上太秀

『正法眼蔵』を通して仏教の歴史・教理を講読する。

〔教科書〕 田上太秀『道元のこころ』(大蔵出版)
¥1,442

〔参考書〕 田上太秀『道元の宗教』(北辰堂)
¥1,800

パーリ仏教特講

片山一良

原始仏教から今日の上座部仏教にいたる伝統仏教を、パーリ仏教という。具体的には、パーリ語聖典を奉じる、南/東南アジアのスリランカ、ミャンマー(ビルマ)、タイなどの仏教を指している。ここではつねに、戒律が仏教の生命である、と言われるが、それは間違いなく仏教の正統である。釈尊は、法を説示され、律を制定されたのである。この講義では、その伝統仏教における基本的な戒律について紹介し、その意義を考えたい。

〔参考書〕 Mohan Wijayaratna: Buddhist Manastic Life (Cambridge U.P.) 1990
『原始仏教・2』(長部「沙門果経」)
(中山書房)

外国語仏書演習

松本史朗

原始仏典を、英訳によって読む。テキスト(コピー使用)は、開講初日に指示する。

パーリ語初級

福田孝雄

前半では、講読に必要な文法的基礎事項の習得に努める。後半では、それらに基づいて簡単な文章を読んで行こうと思う。文法書は下記のもの参照しながら、講義を進めて行くが、講読は必要に応じて、適宜資料をコピーして配布する。

〔参考書〕 水野弘元『パーリ語文法』
東元慶喜『初等パーリ語文法』(英文)

パーリ語上級

福田孝雄

我々はブッダの言葉や原始仏教の精神に謙虚に耳を傾けながら、パーリのテキストを読んで行きたい。パーリテキストの中から、必要に応じて適当な箇所を選んでコピーし、講読する。

パーリ語文法を一応学んだ人であることが望ましいが、その基礎的事項を確認しつつ読んで行くので、初めてパーリ語を学ぶ場合であっても受講は可能である。

サンスクリット語初級

奈良康明

サンスクリット語の文法を学習し、簡単なテキストが読めるようになることを目的とする。

〔教科書〕 J. ゴンダ・鍍淳著『サンスクリット語初等文法』(春秋社)

〔参考書〕 辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

サンスクリット語上級

金沢篤

サンスクリット語(初級)文法に一通り親しんだ者を対象とする。比較的平明なサンスクリット文献を実地に読むことを通じて、文法の基本的事項を確認し、デーヴァ・ナーガリー文字に馴れると共に、実際の読解力を養う。テキストには以下のC. R. Lanmanの『サンスクリット読本』を予定しているが、場合によっては変更もありうる。

〔教科書〕 C. R. Lanman, A Sanskrit Reader
(廉価なインド版もある。)

〔参考書〕辻直四郎著『サンスクリット文法』
(岩波書店)

到底なりたちえぬのではないのでしょうか。
〔教科書〕小川環樹・西田太一郎『漢文入門』
(岩波全書) ¥1,400
〔参考書〕教場で指示。

チベット語初級

松本史朗

チベット語は、インド仏教・チベット仏教の研究を志す者にとって必須の語学である。本科目は、チベット語(文語)の文法を下記の教科書を用いて教授するが、教科書は未公刊につき、コピーを使用するので、受講希望者は開講初日に必ず出席すること。

〔教科書〕山口瑞鳳著『チベット語文法』

ラテン語特講

野島利彰

かつてヨーロッパ文化を支えた教養言語であるラテン語を、平易な教材を用いて初級の段階から学びます。

〔教科書〕樋口・藤井著「詳解ラテン文法」
(研究社) ¥1,640

チベット語上級

木村誠司

前年度に引き続き、チャンキャールルペードルジェI Can skya Rol pa'i rdo rje(1717-1786) 著『教義規定』Grub mtha' rnam par bshag paの「中観章」を読む。本書は、宗義文献(学説綱要書)と呼ばれるものの一つであり、問題提起の適格さ、論述の緻密さにおいて、その最高峰に位置すると思われる。受講者はチベット語(文法)を修得した者か、本年それを並修する者であることが望ましい。

〔教科書〕Lokesh Chandra(ed.): Buddhist Philosophy Systems (Satapitaka Series, Vol. 233)

宗教学概論

松本皓一

人間生活の中で、宗教は如何なる意味と働きをもっているか、人間行動の学と称せられる心理学、社会学、人類学、精神分析学などの視座から概括的に考察してみたい。

〔教科書〕使用せず。
〔参考書〕必要により随時、指示する。

キリスト教史

三小田敏雄

原始キリスト教から現代までのキリスト教を概説する。西洋史概説の講義と重複する部分は省略して、各時代のキリスト教の特色と問題点を明確にしてみたい。教科書および参考書は開講時に指示する。

中国古典語上級

小川隆

「初級」が伝統的な訓読法の訓練であるのに対し、「上級」は、中国古典を外国語として、つまりあくまで中国語そのものとして、直接読みとろうとするものです。双方ともに履習することが望ましいものですが、必ずしも初級→上級という順序である必要はありません。むしろ、この科目をとる為には、現代中国語の基礎を身につけていること(最低でも中国語I A・B既習でいど)が前提となります。そうでない人の履習を拒むものではありませんが、ついてゆくのが難しいだろうと思います。そもそも、現代語にせよ、古典語にせよ、言語というものは、発音と文法の基礎なしには理解できぬものであり、そして言語の理解なしには、思想研究も、歴史研究も、文献研究も、

キリスト教概論

鶴岡賀雄

キリスト教は、信徒数で見ると、現在世界最大の宗教である。また、現代世界を支配している欧米の文化、思想には、キリスト教的伝統が深くしみこんでおり、西洋文化の摂取にある程度成功した現代の日本人にも、無自覚のうちにその影響は及んでいる。

本講義は、このキリスト教について、その教えの核心と、歴史および現状に関する基本的知識を与えることを目標とする。その過程でまた、仏教

はじめ東洋で生まれた諸宗教との類似点や相違点も明らかになろう。

〔参考書〕聖書（新・旧約とも）（どの訳でもよい）

新宗教概説

井 桁 碧

本講の言う新宗教とは、社会変動期における民衆の価値観再構築への欲求、および相対的な社会の安定期における、いわゆる生きがい模索の試みが、カリスマ的教祖を中心にして信仰共同体を形成してゆく、思想運動である。授業では、幕末以降に生まれた日本の新宗教について、民衆の思想運動としての特徴、主要な教団の展開過程とその歴史・社会的背景を概観する。

〔参考書〕井上順孝・孝本 貢・対島路人・中牧弘允・西山 茂編『新宗教事典』（弘文堂）
大村英昭・西山 茂編『現代人の宗教』（有斐閣）¥1,500

各宗綱要（浄土学）

大 谷 旭 雄

まず、浄土宗の開祖である法然房源空の生涯をふりかえる。かくて浄土宗義の構成素材としての経典論、祖師論、教判論等についてのべ、また浄土修道論として安心、起行、作業について概説する。

〔参考書〕阿川貫達「浄土宗義概説」

仏教美術

中 島 亮 一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドも併用し、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的（宗教的）な意味などを考察する。

〔教科書〕佐和隆研編『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720
〔参考書〕久野 健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

仏教民俗学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言えよう。

〔教科書〕和田謙寿著『仏教の地域発展』訂正版（仏教民俗研究会発行）¥3,700

〔参考書〕和田謙寿著『仏教葬送習俗の研究』（仏教民俗研究会発行）¥2,300

宗教教育

松 本 皓 一

宗教的情操を培うことは、円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要な問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適時明示する。

宗教行政

洗 建

わが国の宗教行政は、憲法の定める信教の自由、政教分離の原則にもとづき、宗教法人法によって進められている。その精神の理解を目指すと共に、近代日本の宗教行政史とその問題点を考察する。

〔参考書〕『六法全書』（宗教法人法を掲載するもの）

仏教伝道概説

皆 川 広 義

仏教における伝道法について、理論と実践との二面より概説したい。この場合、伝道とは教えを

宣布する布教活動と、その教えにより対機を育成する教化活動を意味する。

理論面からは、教義、対機、伝道者及び伝道法の三点より、現代における老・病・死の苦悩をふまえて仏教伝道のあり方をさぐる。実践面からは、教えの宣布を中心とした布教活動と、教えにより教化育成する教化活動に分けて現場における実践として具体的に考察する。

希望するものには実習を行う。

〔参考書〕増谷文雄著『仏教の根本聖典』

(大蔵出版)

仏教伝道研究－仏教と死の教育－

皆川 広義

この仏教伝道研究では、毎年伝道上重要な課題をとりあげて考察したい。

このたびは、仏教の立場より、現在アメリカを中心に展開されている死の教育運動をとりあげる。この運動は約二十年ほど前にアメリカ・シカゴ大学の精神医キューブラー・ロスによってはじめられたもので、当時ガンなどの末期患者への死の告知が不可能であったのを可能にし、安らかな死の受容を多く人々にもたらしているものである。

キューブラー・ロスの代表的著書『死ぬ瞬間』をテキストにして、仏教と対比しながら現代における安らかな死の受容を考察したい。それに脳死、臓器移植の問題も論議したい。

〔教科書〕キューブラー・ロス著『死ぬ瞬間』

(読賣新聞社)

青少年問題研究

和田 謙寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年には特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をもつめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版

(大志堂印刷) ¥2,500

青少年指導演習

和田 謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人々には是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大な比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

〔参考書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版
(大志堂印刷) ¥2,500

哲学概説

杖下 隆英

西洋哲学の歴史において、古代、中世、近代から現代にわたって、その意味が不断に問い直され、重要と考えられてきた概念とそれらをめぐる理論的、実践的課題のいくつかをとりあげ、歴史的、問題的に検討したいと思う。

〔教科書〕杖下隆英著『認識と価値』(東京大学出版会) ¥5,047

〔参考書〕講義の過程で必要に応じて示す。

現代哲学概説

田島 節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の主要部分を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』

(世界書院) ¥2,500

哲学史

中村友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシア哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕クラウス・リーゼンフーバー「西洋古代中世哲学史」（日本放送出版協会）
¥2,060

〔参考書〕その都度指示する。

哲学演習

久保陽一

現代の実存主義や解釈学に決定的な影響を及ぼした、ハイデッガーの『存在と時間』を学ぶことにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

哲学史特講

杖下隆英

西欧近代哲学で重要な役割を演じたイギリス古典経験論者、ロック、バークリ、ヒュームのうちで、とくにその掉尾を飾るヒュームをとりあげ、その理論哲学、実践哲学を検討する。それと同時に、その周辺の思想家やヒュームの提起した問題と関連する現代哲学の諸問題についても言及し、検討する。

〔教科書〕杖下隆英著『ヒューム』（勁草書房）
¥1,500

〔参考書〕講義の過程で必要に応じて示す。

中国文学概論

篠原壽雄

中国文学全般にわたって概観できるようにつとめる。このために中国文学の詩賦文章を中心にし

て、その時代相と文人と、その作品を学ぶ。なお、日本文学との関連作品なども併せ講じたい。

〔教科書〕塩谷温著『中国文学概論』（講談社文庫）¥900

中国文学演習

中村璋八

中国の風土の中から自然に発生した漢民族の智慧の結晶でもある易の書は、その後、儒家の根本経典、五経の第一に位置付けられ、「易経」として重要視され、長い時代、多くの人々に読まれた。この易は、占卜の書であると共に中国人の世界観、人生観をも記したものであり、中国の思想、宗教、文学にも大きな影響を及ぼしている。それだけでなく、日本の文学、宗教、習俗、建築など広い範囲に、その影響が見られる。この「易経」を読んで行き、中国人の考え方を究めると共に中国古典、日本の漢詩文の読解力をも養って行きたい。

〔教科書〕プリント

東洋思想研究

館野正美

本年度は、中国古代思想における運命論の問題について講じてゆきたい。前半には、孔子・孟子・墨子・荀子らの考え方を概観し、後半に至って、易経の哲学思想を中心に勉強する。

易占の持つ哲学的意義を明らかにしてゆきたいと考えている。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に紹介します。

心理学概論

篠原英壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』（八千代出版）

禅心理学

茅原 正

複雑で、ストレスに満ちた現代、瞑想に関する科学的研究がさかに行なわれ、心身に及ぼす良好なる効果が数多く発表されている。本講では、坐禅を主とする禅の心理生理学的研究の歴史、および研究の成果について概観するとともに、実験的課題と展望、禅の心理理論学などについても考察する。

〔参考書〕参考文献については、講義の際に指示する。

仏教研究Ⅰ

池田 練太郎

昨年に引き続き、『入阿毘達磨論』の講読を通して、仏教思想の展開の上で重要な役割を果たした説一切有部の教理を検討していく。この論書は、入門書でありながら有部系諸論書の中でも特異な位置を占めるものであるが、その思想的意義についても併せて考察してみたい。テキスト等については授業の際に指示する。

仏教研究Ⅱ

吉津 宜英

この仏教研究Ⅱは「実践」というテーマに焦点を当てて仏教と呼ばれている総体を組織体系的に把握してみたいという目的を担っている。もちろん他の教理、教団といったテーマや仏教の歴史的展開を抜きにして、実践のみを別出できるはずはないので、それらとの相互連関の考慮の下に実践の諸形態を検討してゆく。今年はず先ず阿含經によく出る四念処觀などの内容を学びつつ、次に『大智度論』を用いて六ハラミツの内容を確認し、大乘とアビダルマ仏教の実践論とその帰結とを見定めたい。次に中国仏教において、それらの実践形態はどのように展開したのかについて、禅と念仏の成立と融合ということを中心として考えてみたい。

〔教科書〕プリント配布

〔参考書〕教場で指示

仏教研究Ⅲ

石川 力山

この講義は、仏教の歴史的展開の諸相のうちで、特に「教団」という組織体の意義やその内容を中心とする。仏教の教団組織は、同一目的をもって釈尊の下に集った弟子達の集団（サンガ）にはじまるが、その後仏教が東アジア社会に広く浸透するにしたがって、社会の諸層や国家的権力との関係を余儀なくされた。

今年度は特に、日本仏教における教団の特徴、中でも他の仏教圏諸国には見ることのできない、「肉食妻帯」を許容するに至った、日本仏教の、体質的特質の淵源と成立過程を素材として、上記の問題を考えてみたい。

仏教研究Ⅳ

伊藤 隆寿

本講座は、仏教の歴史について扱う。

インドで成立した仏教が、他の領域に流伝し受容される様相を、中国と日本とに例を取り考えてみたい。

前半は、中国において仏教がいかなる状況のもとに受容され変容して行ったかを思想的に跡付け、後半は、日本の歴史と文化に果たした仏教の役割を、日本への初伝期から奈良時代に限って考えることにしたい。

資料や参考書は、授業の初日に指示する。

パーリ仏教史

片山 一良

仏教2500年の歴史は、原始仏教の流れを直接に汲む、今日の上座部仏教の中に見ることができるといっても過言ではない。この伝統仏教をパーリ仏教と呼ぶが、それは、インド以来、スリランカ、ミャンマー（ビルマ）、タイなどにいたる仏教が、すべてパーリ語という聖典語を通して、伝えられたからである。それゆえにまた、ここには完全な經・律・論の三蔵が整っている。この講義では、スリランカの仏教を中心に、その歴史と伝統を紹介し、併せて文化ないし社会の変化についても触れたいと思う。

〔参考書〕Richard Gombrich: Theravada-Buddhism — A Social History from Ancient Benares to Modern Colombo (Routledge & Kegan Paul) 1988

演習 I・II

石井 清純

『道元和尚広録』（永平広録）を読む。

道元禅師の語録である『永平広録』は、仮名『正法眼蔵』に比べ、思想研究の上で取り上げられることが少なかった。それは本書が漢文表記による端的な表現形式を採っていることに由来すると考えられる。

しかし、「上堂」という禅林の重要な儀則に従って行なわれた説示の記録として、本書は道元禅師のもう一つの側面を知るに好適な資料といえる。

そこで本演習では、漢文資料に親しむことと共に、道元禅師の古則公案の扱い方を意識しながら、最古の写本である門鶴本を読み進めることにしたい。

〔教科書〕大久保道舟編『道元禅師全集』下巻
（筑摩書房）

※演習箇所をコピーにて配布する。

〔参考書〕鏡島元隆校註『道元禅師全集』卷三・四（春秋社）¥3,800, ¥4,000
渡部賢宗・大谷哲夫編『祖山本永平広録』上・下（一穂社）2冊¥30,000

他学部履修科目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目 次

禅学特講 I (原田 弘道)	1	日本経済史 (古庄 正)	7
禅学特講 II (黒丸 寛之)	1	中小企業論 (三井 逸友)	8
禅学特講 III (石井 修道)	1	教育経済論 (谷敷 正光)	8
禅学特講 IV (鈴木 格禅)	1	アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	8
禅学思想史 (峰岸 孝哉)	1	財務会計論 (小栗 崇資)	9
哲学史 (中村 友太郎)	1	管理会計論 (中原 章吉)	9
インド仏教史 (田上 太秀)	2	会計監査論 (飯岡 透)	9
中国仏教史 (佐藤 達玄)	2	商業政策 (岩下 弘)	9
日本仏教史 (山内 舜雄)	2	貿易論 (古沢 紘造)	10
日用經典 (皆川 広義)	2	マーケティング (曾我 信孝)	10
仏教美術 (中島 亮一)	2	原価計算論 (加藤 利安)	10
現代哲学概説 (田島 節夫)	2	労務管理論 (石井 脩二)	10
上代文学 (小野 寛)	2	行政法 II (斉藤 寿)	11
中世文学 (水原 一)	3	民法 IV (1) (青山 尚史)	11
近世文学 (富士 昭雄)	3	民法 IV (2) (青山 尚史)	11
近代文学 (片岡 懋)	3	比較憲法 (竹花 光範)	11
中国文学 (中村 璋八)	3	地方自治法 (梅木 崇)	11
英文学特講 I (石原 孝哉)	3	経 済 法 (川井 克倭)	11
英文学特講 II (高野 正夫)	3	国際関係論 (首藤 素子)	12
英文学特講 III (高野 正夫)	3	西洋政治史 (浦田 早苗)	12
英文学特講 IV (中岡 洋)	3	宣伝広告論 (上條 末夫)	12
英文学特講 V (高松 雄一)	4	政 党 論 (早川 純貴)	12
英文学特講 VI (丸小 哲雄)	4	経営学史 (北村 健之助)	12
英米演劇特講 (落合 和昭)	4	国際経営論 (桑名 義晴)	12
米文学特講 I (東 雄一郎)	4	保険経営論 (石名坂 邦昭)	13
米文学特講 III (山縣 敏夫)	4	経営情報論 (高井 徹雄)	13
時事英語 (大沢 一雄)	4	経営分析論 (片桐 伸夫)	13
地形学 I (小池 一之)	4	税務会計論 (高木 克己)	13
地 質 学 (貝塚 爽平)	4	経営労務論 (中村 真人)	13
人口地理学 (土谷 敏治)	5	商 業 史 (山田 勝)	14
応用地理学 I (高木 正博)	5	国文講読 I (上代) (佐原 作美)	14
文化地理学 (荻口 善美)	5	国文講読 II (中古) (鈴木 裕子)	14
日本史特講 VII (近代) (山口 一之)	5	国文講読 III (中世) (岡崎 正)	14
東洋史特講 X (近・現代) (渡辺 惇)	5	国文講読 IV (近世) (嶋田 彩司)	14
西洋文化史 I (椋川 一朗)	5	国文講読 V (近・現代) (安藤 幸輔)	14
考古学特講 III (飯島 武次)	5	国文講読 V (近・現代) (尾形 国治)	14
歴史哲学 (麻生 建)	5	国文特講 V (近・現代) (大室 英爾)	14
哲学史 (丸山 豊樹)	5	英文タイプライティング II (竹内 美恵子)	15
日本民俗学 (谷口 貢)	6	時事英語 (岡本 誠)	15
マスコミュニケーション (川本 勝)	6	英語演習 I (岡本 誠)	15
産業社会学 (安藤 喜久雄)	6	計算機言語概論 (杉田 徹)	15
都市社会学 (文屋 俊子)	6	臨床放射線特論 I (本間 襄)	15
社会福祉発達史 (林 千代)	6	応用計測学 (樞尾 英次)	15
ソビエト経済論 (山縣 弘志)	6		
社会政策 (小越 洋之助)	7		
国民所得論 (吉野 紀)	7		
中国経済論 (小杉 修二)	7		
アジア経済論 (小林 英夫)	7		

他学部履修科目

禅学特講Ⅰ

原田弘道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒丸寛之

道元禅師と『法華経』について、『正法眼蔵』の所説を中心として講述し、併せて良寛の『法華転』『法華讃』を読む。主な講本となる『正法眼蔵』は、既刊本の何れでもよいから、各自に必ず用意して受講されたい。

禅学特講Ⅲ

石井修道

平成3年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕『大慧書』（筑摩書房）¥3,500

禅学特講Ⅳ

鈴木格禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に住した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕『続曹洞宗全書（法語・歌頌）』

P.411～P.445 までをコピーすること。

禅学思想史

峰岸孝哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』（講座道元Ⅱ）

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

哲学史

中村友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕 クラウス・リーゼンフーバー『西洋古代中世哲学史』（日本放送出版協会）
¥2,060

〔参考書〕 その都度指示する。

インド仏教史

田 上 太 秀

1. 仏教の起源と発展
2. 経典の成立・種類・思想など。
3. 仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 田上太秀『禅の思想』（東京書籍）
¥1,009

『禅語散策』（東京書籍）¥1,000

中国仏教史

佐 藤 達 玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕 『仏教史概説—中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

山 内 舜 雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕 宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

日 用 経 典

皆 川 広 義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典に

ついて回向文をふまえて解説し、宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。

仏 教 美 術

中 島 亮 一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドも併用し、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的（宗教的）な意味などを考察する。

〔教科書〕 佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕 久野 健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現代哲学概説

田 島 節 夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレイゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の主要部分を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕 田島節夫著『現象学と記号論』（世界書院）¥2,500

上 代 文 学

小 野 寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土記』の地名起源説話などもおもしろい。『古事記』『日本書紀』にはまた、「うた」が多く含まれている。古代人たちが曲節をつけ、所作をつけ、楽

器を伴奏に唱ったものである。これを『記紀歌謡』という。そして「うた」はやがて書記されるようになり、記載文学としての「うた」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。

〔教科書〕適宜指定し、あるいはプリントを使う。

行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,170

中 世 文 学

水 原 一

『とはずがたり』（後深草院二条の日記）を読み、題材となった作者の生涯・運命・人間関係について考察し、日記文学としての特色について考えてみたい。

〔教科書〕富倉徳次郎『とはずがたり』（筑摩書房）

英文学特講 I

石 原 孝 哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕ノースロップ・フライのシェイクスピア講義（三修社）

近 世 文 学

富 士 昭 雄

近世の俳文の講読を通して、俳諧文学の特質を考察する。芭蕉の代表的な俳文『幻住庵記』、也有的『鶉衣』、蕪村の俳文などを考察の対象とする。

〔教科書〕中村俊定等編『近世俳文集』（笠間書院）¥824

英文学特講 II

高 野 正 夫

ロマン主義への移行期の詩人、Gray, Cowper, Collins などの作品を読んでいます。

〔教科書〕教場にて指示します。

近 代 文 学

片 岡 懋

夏目漱石の『坑夫』と『三四郎』以後の作品について考察する。

英文学特講 III

高 野 正 夫

イギリス・ロマン派の主要な詩人について、それぞれの時代的背景や特徴をふまえながら読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

中 国 文 学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間

英文学特講 IV

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講V

高松 雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イエイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕 必要があれば開講時に指示する。

英文学特講VI

丸小 哲雄

文学（虚構）テキストを批判的に検討する理論と実践。とりわけテキスト研究をすすめる。テキストの読み（物語構成を捉える遠近法）。テキストの解釈（テキストの意味と主題の捉え方）。そしてテキストの読みと解釈の後でどのようにしてテキスト批評を行なうか。前期では文学理論としてロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、記号論、ポスト構造主義などを主として講義します。後期ではテキストの読み・解釈・批評の実践として、英米及び日本文学からテキストを選び、実践批評の機能とその快楽を目指します。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示。また、適宜、プリントも配布します。

英米演劇特講

落合 和昭

前期はギリシャ時代から現代までの劇場史を学び、後期は演劇の要素について学ぶ。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としてはレポートを十回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程度）ほど提出してもらう。

米文学特講 I

東 雄一郎

19, 20世紀のアメリカ詩を扱う。

〔教科書〕 開講時に指示します。

〔参考書〕 開講時に指示します。

米文学特講 III

山縣 敏夫

アメリカにおける人種差別の問題について考察する。アメリカ人にはWASPという人種的な優越意識が根深く浸透しており、白人でアングロサクソンでプロテスタントであることが彼等の誇りとされてきた。そのような社会の中で黒人奴隷がどのように扱われ、黒人文学がどのようにして生まれたかを探り、代表的な作家と作品を紹介する。又、ユダヤ系作家やその代表作品についても研究したい。

〔教科書〕 開講後に指示する。

時事英語

大沢 一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものになりたい。（内容は最先端の知見を含む）

〔教科書〕 貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

地質学

貝塚 爽平

関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象 — たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁分布帯の形成 — についても講ずる。後期には教科書を使う予定。

人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化、人口移動について、研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

応用地理学 I

高木 正博

河川と地域の関係を、災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。
〔参考書〕高橋 裕著『河川工学』（東京大学出版会）

文化地理学

こも 茨口 善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講Ⅶ（近代）

山口 一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

渡辺 惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として、秘密結社（会党・帮会）をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。
〔参考書〕講義の中で紹介、指示する。

西洋文化史 I

椽川 一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を、社会構成を中心に講述する。
〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

考古学特講Ⅲ

飯島 武次

周文化の考古学研究。

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。
〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

哲学史

丸山 豊樹

この講義の内容は「近代哲学史」である。近世哲学も古代・中世の哲学の発展であるから、最初は古代・中世の哲学との関連を概観した後で、近世独自の思想を論ずる。

近代を特徴づける最初の哲学は「イギリス経験論」と「大陸合理論」であるが、それを総合するカントの哲学は、近代の「科学」を対象とする最初の哲学とみなすことができ、その内容は現代に

おいてもなお多くの問題を含んでいる。まずカントを重点的に論じた後で、その後の多様な現代哲学に論及するつもりである。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安 藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか考察する。

〔教科書〕安藤喜久雄他著『産業と組織の社会学』（学文社）

都市社会学

文 屋 俊 子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献として、外国の新旧の論文を集めたものとして、

鈴木 広編『都市化の社会学（増補）』（誠信書房）¥3,800

日本の論文を集めたものとして、

『リーディングス 日本の社会学7 都市』

『リーディングス 日本の社会学5 生活構造』

（東京大学出版会）各¥2,500

などが適当かと考えている。

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

ソビエト経済論

山 縣 弘 志

ソビエト経済は移行期の混乱を経験している。その領土的枠組すらも流動的である。しかし、ヨーロッパとアジアにまたがるユーラシア地域に、従来の歴史的背景に想定された独特の経済活動が今後も展開されていくであろうことは疑いない。

ところで、何から何への移行期なのか、という問題は、前段の「何から」を抜きに議論を進めることができない。これは、何が崩壊したのか、19

17年から1980年代までのソビエト経済とは何だったのかという問題である。これに答えるためには、第1に、社会主義とは何かを問わなければならない。それとの対比において、ソビエト経済が何であったのか、の解明が可能である。講義においては、次いで、ソビエト経済の個々の側面の分析に進むが、その要素は、(1)「計画経済」の実態、(2)工業・農業・流通をはじめとする経済構造とその機能、(3)「経済改革」からペレストロイカに至る道程などである。

全体として、1930年代に形成された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たしたことになるであろう。

〔参考書〕講義の中で指示する。

社会政策

小越洋之助

本年度は賃金問題を中心に、現実の日本の状況をふまえて具体的に説明していく。前半では日本の賃金体系の基礎をなす年功賃金の特徴、その成立史、高度成長期の変容（年功賃金の職務給化）低成長期の変容（年功賃金の職能給化）、最近における「複線型人事＝賃金制度」の特徴、問題点などを述べる。後半は日本の賃金水準の決定の仕組み（賃金決定機構）を中心に具体的に説明していく。ここでは春闘方式とその変遷、人事院勧告、最低賃金制などについて述べ、全体としての賃金水準決定のメカニズムを理解してもらうことを目的とする。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕講義中に指示する。

国民所得論

吉野紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を変貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い

時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

手始めに、GNP統計を多面的に使う、日本の経済の実相をつかみ取ることからとりかかってゆこう。

中国経済論

小杉修二

現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥3,300

アジア経済論

小林英夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。まず最初に日本とアジアの経済関係を戦前から概観し、その後戦後をⅠ.賠償過程Ⅱ.借款過程Ⅲ.直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。そして、輸出地区や工業団地での日系企業の具体的活動を論ずる。参考書は、追って指示する。

日本経済史

古庄正

ロンドン大学教授森嶋通夫は、『日本はなぜ成功したか』（TBSブリタニカ）という書物を書き、日本経済の発展とその矛盾を、「日本の儒教」（「仁」のない儒教）との関連で論じた。森嶋が提起したこの問題を、経済史の観点からみた場合、どういうことがいえるだろうか。この講義ではこの点を中心に考えてみたいと思っている。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、今日こそさまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられる。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐるこれまでの理論・研究を批判的に検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理が貫徹がもたらす「経済的關係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策についてもふれてみたい。

〔構成予定〕

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態

IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』

(青木書店) ¥2,800 (税抜)

〔参考書〕巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ』
(有斐閣)

中小企業庁編『中小企業白書』

〔各年次〕

教育経済論

やしき
谷 敷 正 光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦前・戦後の日本経済の発展と産業教育を中心に講義する予定である。

戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した日本経済から現在までを経済団体の産業教育要請とそれに対応した政府の経済政策、産業教育政策を日本経済の発展との関連で考察する。

授業中は、できるだけ必要な資料を配布する。

〔教科書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』
(東大出版)

〔参考書〕高浜介二著『現代資本主義の発展と教育』(汐文社)

本庄良邦著『産業教育体制論研究』

(三和書房)

文部省『産業教育百年史』(ぎょうせい)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情についてのトータルな解説をおこなう(アメリカの社会・国家・宗教とアメリカ資本主義の関連、財政と金融の制度と問題点、先端産業の役割と限界、農業の現状と諸問題、多国籍企業の実態、日米経済摩擦の経過と展望、アメリカ的生活様式、ほか)。講義では、一回ごとにひとつずつテーマをかかげ、受講者諸君の関心にてらして問題をたて、それを具体的な資料やデータにもとづいて解明する。授業は極力たのしく、理路整然とわかりやすくすすめるつもりであるが、定刻に開始するので遅参しがちな学生を出席を遠慮されたい。なお、この講義の性格上、3年次で履修することをすすめる。

財務会計論

小栗 崇 資

会計学の領域は、大きく財務会計と管理会計の2つに分けられる。財務会計は経済的社会的関係の調整・維持のために企業の外部に向けて行なわれる会計であり、管理会計は経営管理のために企業の内部で行なわれる会計である。領域や目的以上に2つの会計の違いを特徴づけるのは、法や制度との関係である。特に財務会計は、企業や経済を支える重要なしくみの1つとして法や制度によって様々な規制を受けている。この講義では、こうした財務会計の特徴に光を当てながら、会計の理論と制度について勉強していきたい。講義の予定としては、簿記から会計への発展過程、近代会計の理論、日本の会計制度、アメリカの会計制度、現代会計の諸問題などをテーマとして取り上げるつもりである。

今日の会計は大きな変化の波にさらされている。日本の会計制度も日本構造協議の議題の1つとして出されるほどに多くの問題を抱えており、その見直しが必要となってきた。講義でも技術的知識の習得に力を入れると同時に、今日の会計をめぐるトピックスにも触れながら生きた知識が身につくように努めるつもりである。

〔教科書〕野村秀和編著『企業会計—実務・理論・制度』（青木書店）

〔参考書〕遠藤 孝『企業会計論』（白桃書房）
¥2,500

管理会計論

中原 章 吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえで成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入っていく。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕中原章吉著『企業付加価値計算書の研究』（白桃書房）¥3,500

〔参考書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』

会計監査論

飯 岡 透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することにあり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査人の財務諸表への関与方式、監査役と会計監査人、監査証拠、個別財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

〔教科書〕飯岡 透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）

〔参考書〕飯岡 透著『株式会社会計監査論』（創成社）
飯岡 透編『会計監査基本規則集』（創成社）

商 業 政 策

岩 下 弘

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売小保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 1) 東京商工会議所 2) 日本小売業協会
 - 3) 日本チェーンストア協会 4) 日本商業労働組合連合会 5) ゼンセン同盟
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 79年改正大店法 3) 91

年改正大店法

5 凍結宣言、要綱及び条例

6 通産省による行政指導＝抑制措置

7 規制緩和

1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置

8 商業集積法

五 海外の流通政策

1 イギリス

1) 出店調整政策－都市・農村計画法

2) 日曜営業問題－商店法

2 フランス－ロワイエ法

3 ドイツ－土地利用計画

4 アメリカ－ゾーニング規制

六 「大形店問題」と訴訟－中小商業者運動論

1 大形店の出店をめぐる諸問題

1) 社会問題としての大形店の出店 2) 消費者と大型店

2 江釣子訴訟

1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響

2) 訴状と判決の問題点

3 生業権訴訟

1) 名古屋市の大型店問題

2) 名古屋市の商業と小売市場

3) 生業権論

七 流通問題と消費者保護政策

1 消費者問題論

2 消費者保護基本法

3 消費者行政

八 流通問題と独占政策

1 独占禁止法

2 不公正取引

3 取引慣行

以上

貿易論

古沢 紘造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめます。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との

共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提示する経済学です。

マーケティング

曾我 信孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労的消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

原価計算論

加藤 利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も、我が国の『原価計算基準』（原価計算制度）の内容を中心にして、原価計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。またその際に、原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は、中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書、参考書を使用して行う。

〔教科書〕 諸井勝之助著『原価計算講義』（東大出版会）

〔参考書〕 津曲直躬著『原価計算論講義』（中央経済社）

労務管理論

石井 脩二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は、つとにその複雑さをまし、とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では、重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に、日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本

企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本的経営」がどの程度の通用性もちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔参考書〕『労務管理先端シリーズ(1), (2), (3)』(中央経済社) 各¥2,800

行政法 II

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・营造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。そして、時間的に可能であれば、生活空間(環境)形成行政法などにも、および予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』(勁草書房)、
『行政法 I・II』(評論社)など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法 IV (1)

青山尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛治良堅著『親族法講義』(啓文社)

民法 IV (2)

青山尚史

民法IV-(2)は、相続法(民法典第5編 882条~1044条)である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規

律する純粹身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛治良堅著『相続法講義』(啓文社)

比較憲法

竹花光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首(共和制と君主制、元首、国のシンボル等)
4. 統治の原理と構造(民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等)

〔教科書・参考書〕講義中で述べる。

地方自治法

梅木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、各種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

経済法

川井克倭

経済法—独占禁止法を中心として—

- 第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
- 第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的・その他私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、な

るべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップトゥデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克倭著『競争政策法概説』
(高文堂) ¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。
川井克倭著『カルテルと課徴金』
(日本経済新聞社)

国際関係論

首藤素子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕渡辺昭夫編『講座 国際政治』第4巻
(東大出版会) 1989年 ¥2,266

〔参考書〕細谷千博・丸山直起編
『国際政治 ハンドブック』改訂版
(有信堂高文社) 1991年

西洋政治史

浦田早苗

ヨーロッパにおいて自由と民主化が今日ほど問われている時代はない。このような概念の実践と制度化をめざした政治が本格的に登場するのは、近代市民社会においてである。

講義では、近代市民革命から現代に至るまでの政治上の主要な問題を史的に整理しようと思う。

〔教科書〕開講後、追って指示する。

〔参考書〕開講後、追って指示する。

宣伝広告論

上條末夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政党論

早川純貴

イギリスの二大政党政治について、とりわけ戦後の保守党と労働党による「合意の政治」から、70年代に始まる「敵対の政治」、そしてサッチャー政権の特質までを論じる。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介

経営学史

北村健之助

ドイツ経営経済学(前史、成立、1・2・3・4次方法論争、現代の経営経済学)およびアメリカ経営学(成行管理、科学的管理法、管理過程論、行動科学的展開)等々の発展過程を現代経営学を軸に探り、経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト、参考書は一応下記に示しましたが、必要があればその都度他の参考書をお勧めする積りです。

〔教科書〕藤芳誠一著『図説 経営学』(学文社)

国際経営論

桑名義晴

われわれの住む地球は、かつての人間が想像もしなかったほどに時間的にも空間的にも狭くなっている。このため現在、世界の企業の国際化やグローバル化も非常に活発になってきている。とくに近年の日本企業は、地球規模で事業活動を展開

するようになってきている。

本講義では、近年の日本企業にとって最も重要な経営課題の1つになってきている国際経営の諸問題を多面的な角度から検討していく。たとえば、国際環境の激変と政治リスク管理、グローバル競争戦略、国際情報システム、国際経営組織、国際人事管理、日本の経営の国際的適用性などの諸問題を、日本や欧米のグローバル企業のケースも織り込みながら講義していく予定である。

〔教科書〕中村久人・桑名義晴『最新国際経営論』
(中央経済社) ¥2,800

〔参考書〕講義中に紹介します。

経営分析論

片 桐 伸 夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

保険経営論

石名坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中であって高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてはいかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』(白桃書房) ¥2,500

税務会計論

高 木 克 己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、課題を設定し、レポートの提出を求める。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

経営情報論

高 井 徹 雄

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関する体系的な観点と、情報処理技術の基礎について解説する。

I 総論：経営情報の体系的観点

- (1) 経営情報と情報科学
- (2) 情報と意思決定
- (3) 情報ネットワークと情報環境

II 各論：経営情報の処理技術

- (1) データベース
- (2) 統計データ解析
- (3) シミュレーション
- (4) DSSとES

〔教科書〕高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』

(日刊工業新聞社) ¥3,200

経営労務論

中 村 眞 人

経営労務論は、企業経営における労働・労働力・労働者の諸問題を研究する学問である。特に、個別企業の労務管理および労使関係の理論・歴史・実態の解明をめざす。

本講義では、まず、企業労働に関する諸概念、労務管理と労使関係の歴史的発展などにつき概説する。つぎに、賃金、労働時間、雇用管理、労使関係、その他について各論を解説する。最後に、以上の知識をふまえた上で、現代日本における企業労働の具体的な諸問題を取り上げる予定である。

講義の中では、現実の諸事例にも、適宜、言及していく。

商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人(社)を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ(上代)

佐原 作美

『万葉集』の中から代表的歌人である柿本人麻呂や山上憶良などの歌の中からを中心に鑑賞しながら講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』
(桜楓社) ¥1,600

国文講読Ⅱ(中古)

鈴木 裕子

『源氏物語』を「桐壺巻」から読む。光源氏の誕生から、多感な青年期の物語をたどりながら『源氏物語』の魅力を味わってみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』一
(新潮社) ¥2,300

国文講読Ⅲ(中世)

岡崎 正

中世の芸術として完成した能の中心的存在であった世阿弥の伝書『風姿花伝』を通して、その稽古論、演技論、作劇論、幽玄論について研究する。併せて中世の芸術全般の特色を考えてみたい。

〔教科書〕『風姿花伝』(岩波書店、ワイド版
岩波文庫)

国文講読Ⅳ(近世)

嶋田 彩司

『雨月物語』を読みます。江戸中期の知的状況、作者上田秋成の人生との相関などに言及しながら、

幾篇かを精読します。

〔教科書〕大輪靖宏訳註『対訳古典シリーズ 雨月物語』(旺文社、文庫サイズ)
¥620

国文講読Ⅴ(近・現代)

安藤 幸輔

室生犀星の文学作品を講読する。

順序として、(1)俳句 (2)詩 (3)小説 (4)評論ということになる。

〔教科書〕追って指示する。(岩波、新潮文庫)
〔参考書〕その都度指示する。

国文講読Ⅴ(近・現代)

尾形 国治

明治・大正・昭和期の名作を1年間でおよそ12~3作品じっくりと読む。作者とその時代、生い立ちの問題、さらにはその文学的特色と可能性、その限界など、さまざまな角度から考察してみたいと思う。

〔教科書〕各種文庫本

国文特講Ⅴ(近・現代)

大室 秀爾

島崎藤村の作品を読む。その人間と文学の統一されたかたちを長い作家生涯をかけてどのように作りあげていったか。作品の読みを通し、彼をとりまくあらゆる「外圧」を視野に入れつつ考えていきたい。

〔教科書〕各種文庫本。開講時に指示。

英文タイプライティングⅡ

竹内 美恵子

一年次に習得した基礎の上に、レター・各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。

なお、他学部の学生は、ブラインド・タッチをマスターしていること。

時事英語

岡本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してくること。

〔教科書〕テープ使用。

英語演習Ⅰ（ディクテーション）

岡本 誠

慣用句の成立背景を歴史的にみていくが、これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点以上をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による
実習

〔教科書〕戸川隼人著『ザ・BASIC』
(サイエンス社) ¥1,750

臨床放射線特論Ⅰ

本 間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係の仕事につく人に必要な知識といえる。

〔教科書〕定めず

応用計測学

櫃尾 英治

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器（ガンマカメラ、シングルホトンECT、ポジトロンCT）、X線CT装置、MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置、DSA、CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕岩井喜典他編著『医用画像診断装置』
(コロナ社)

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事 講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。
(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教育原理 (上岡 安彦)	1
教育原理 (北村 三子)	1
教育原理 (坂本 信昭)	1
教育原理 (村山 輝吉)	1
教育原理 (小山 一乗)	1
教育心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (改田 明子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (国眼 眞理子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (中村 均)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (難波 和明)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (川田 三夫)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (小宮山 要)	3
青年心理学 (教育方法論を含む) (牟田 悦子)	3
特別活動 (中野目 直明)	3
生活指導 (佐藤 尚人)	3
宗教科教育法 (小山 一乗)	3
国語科教育法 (神谷 道倫)	3
書道科教育法 (金子 卓義)	4
英語科教育法 (大沢 一雄)	4
社会科・地理歴史科教育法 (川合 元彦)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (中島 義一)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (野呂 肖生)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (長谷部 八朗)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (谷敷 正光)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (大久保 治男)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (橋爪 敏)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
職業科教育法 (前田 幸一)	5
商業科教育法 (谷敷 正光)	5
道徳教育の研究 (上岡 安彦)	6
教育実習 (上岡 安彦)	6
教育実習 (坂本 信昭)	6

教育実習 (村山 輝吉)	6
教育実習 (北村 三子)	7
教育実習 (小山 一乗)	7
(2) 教職に関する専門科目 (選択)	
教育哲学 (汐見 稔幸)	7
教育社会学 (高島 秀樹)	7
現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹)	8
教育評価 (大浜 幾久子)	8
教育情報学 (難波 和明)	8
教育調査 (鈴木 規夫)	8
教育史 (北村 三子)	8
教育関係法規 (広沢 明)	8
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(8)
社会教育施設 (村山 輝吉)	(8)
図書館学 I (山崎 慶子)	(8)
図書館学 II (源 昌久)	(8)
青少年問題研究 (和田 謙寿)	9
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	(9)
教育臨床心理学 (牟田 隆郎)	9
教育法規研究 (神田 修)	9
児童文化 (湯山 厚)	9
宗教教育 (松本 皓一)	9
(3) 教科に関する専門科目	
【社会 地理 歴史 公民】	
日本史概説 (大久保 俊昭)	10
日本史概説 (小松 寿治)	10
世界史概説 (井村 行子)	10
世界史概説 (渡辺 惇)	10
地誌学概説 (今朝洞 重美)	10
地誌学概説 (長野 寛)	10
地誌学概説 (宮口 侗迪)	10
人文地理学概説 (小林 高壽)	10
自然地理学概説 (早船 元峰)	11
自然地理学概説 (高木 正博)	11
民法 I (青野 博之)	11
民法 I (林 幸司)	11
政治学原論 (上條 末夫)	11
社会学原論 (渡辺 源樹)	11
経済原論 (阿部 弘)	11
経済原論 (荒木 勝啓)	12
経済原論 (小野 俊夫)	12
哲学概説 (篠原 壽雄)	12
哲学概説 (國嶋 一則)	12
倫理学概説 (久保 陽一)	12
宗教学概説 (脇本 平也)	12
宗教学概説 (洗 建)	12
宗教学概説 (松田 文雄)	13

宗教人類学 (佐々木 宏幹) ……………	(13)
民間信仰論 (谷口 貢) ……………	13
東洋思想研究 (館野 正美) ……………	13
民衆宗教成立史 (洗 建) ……………	13
歴史哲学 (麻生 建) ……………	13
日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘) ……………	(13)
美術史概説 (中島 亮一) ……………	(13)
日本宗教文化史 (脇本 平也) ……………	13
日本仏教史 (廣瀬 良弘) ……………	13
【職業】	
産業概説 (前田 幸一) ……………	14
職業指導 (山田 勇治) ……………	14
商業実習 (前田 幸一) ……………	14
【商業】	
職業指導 (山田 勇治) ……………	(14)

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ (山崎 慶子) ……………	15
図書館学Ⅱ (源 昌久) ……………	15

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) ……………	16
社会教育計画 (村山 輝吉) ……………	16
社会教育実習 (村山 輝吉) ……………	16
社会教育実習 (上岡 安彦) ……………	16

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) …	(16)
婦人問題と社会教育 (矢口 悦子) ……………	16
青少年問題研究 (和田 謙寿) ……………	(17)
青少年指導演習 (和田 謙寿) ……………	17
社会教育施設 (村山 輝吉) ……………	17
図書館学Ⅰ (山崎 慶子) ……………	(17)
博物館学Ⅰ (太田喜美子) ……………	(17)
博物館学Ⅱ (竹内 順一) ……………	(17)
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人) ……………	17
社会体育Ⅰ (古田 潤子) ……………	18
社会体育Ⅱ (古田 潤子) ……………	18
視聴覚教育 (赤堀 正宜) ……………	(18)
教育原理 ……………	(18)
教育心理学 (教育方法論を含む) ……………	(18)
青年心理学 (教育方法論を含む) ……………	(18)
社会心理学 (坪井 健) ……………	18
教育社会学 (高島 秀樹) ……………	(18)
教育調査 (鈴木 規夫) ……………	(18)
教育史 (北村 三子) ……………	18
児童文化 (湯山 厚) ……………	18
社会教育行政 (牧野 篤) ……………	18
成人学習論 (牧野 篤) ……………	19

Ⅳ 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ (太田喜美子) ……………	20
---------------------	----

博物館学Ⅱ (竹内 順一) ……………	20
教育原理 ……………	(20)
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) ……………	(20)
視聴覚教育 (赤堀 正宜) ……………	20
博物館実習Ⅰ (館務) (倉田 芳郎・飯島 武次・ 太田喜美子) ……………	20
博物館実習Ⅱ (収集) (所 理喜夫・葉貫 磨哉 恵津森智行・太田喜美子) ……	20
考古発掘実習 (千葉 基次) ……………	21
博物館実習Ⅲ (見学) (倉田 芳郎・飯島 武次・ 太田喜美子) ……………	21

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘) ……………	21
インド仏教文化史 (奈良 康明) ……………	21
西洋文化史Ⅰ (椽川 一朗) ……………	21
西洋文化史Ⅱ (三小田 敏雄) ……………	21
仏教美術 (中島 亮一) ……………	22
現代美術 (宮崎 克己) ……………	22
禅美術 (海老根 聰郎) ……………	22
美術史概説 (中島 亮一) ……………	22
西域美術史 (相馬 隆) ……………	22
考古学概説Ⅰ (日本) (前期:大三輪龍彦) (後期:倉田 芳郎) ……………	22
考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次) ……………	22
考古学特講Ⅰ (高浜 秀) ……………	22
考古学特講Ⅲ (飯島 武次) ……………	23
日本民俗学 (谷口 貢) ……………	23
仏教民俗学 (和田 謙寿) ……………	23
宗教人類学 (佐々木 宏幹) ……………	23
地形学Ⅰ (小池 一之) ……………	23
地質学 (貝塚 爽平) ……………	23

社会福祉主事

講座

V 社会福祉士基礎

※社会福祉原論 (伊藤 秀一) ……………	24
※社会福祉原論 (原田 信一) ……………	24
※老人福祉論 (前期:東條 光雅) (後期:中野いく子) ……………	24
※障害者福祉論 (原田 信一) ……………	24
児童福祉論 (高橋 重宏) ……………	24
※社会保障論 (近藤 功) ……………	25
※公的扶助論 (伊藤 秀一) ……………	25
※地域福祉論 (永田 幹夫) ……………	25
※心理学 (福祉) (井上 孝代) ……………	25
※社会学 (福祉) (山手 茂) ……………	25
※法学 (福祉) (小林 弘人) ……………	26
リハビリテーション論 (原田 信一) ……………	26
社会福祉計画論 (和田 敏明) ……………	26

社会福祉運営論 (永田 幹夫)	26
家族福祉論 (田村 健二)	26
医療福祉論 (春見 静子)	26
婦人福祉論 (林 千代)	27
保健福祉論 (安梅 勅江)	27
社会福祉発達史 (林 千代)	27
海外社会福祉論 (中野 いく子)	27

上記科目のうち

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注 () 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教育原理

上岡安彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次に出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕
(岩波文庫)

上 ¥570, 中 ¥520, 下 ¥520

教育原理

北村三子

若者の生き方を歴史的に展望することを通して、近代の青年期教育思想の性格を吟味したい。講義は、近代以前の若者の有り様を概観した後、近代青年期の成立とその特性にふれ、次いで青年期教育思想の検討へと進む予定である。

〔参考書〕教場で指示

教育原理

坂本信昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える

12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート(エイデル研究所)¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』
(学芸図書)¥950

デュエイ著、宮原誠一訳『学校と社会』
(岩波文庫)¥200

教育原理

村山輝吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会のかかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕(国土社)
『教育の原理I・II』(東大出版会)

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』(岩波新書)
¥480

教育原理

こやまかずのり
小山一乗

教科書や適宜配布する資・史料等に刺激されながら、日常生活の中で自明理のごとくに看過している教育の原初的事象や用語を意識的に対象化し、教育的・教育学的に考察していきたい。日常語と非日常語とに使い分けしている用語についてもとりあげてみたい。その際の留意項目は、①教育学研究の諸方向、②教育とは「何」か、③教育の目的・目標、④教育の内容、⑤教育の方法(教授学習・生活指導)、⑥教育の経営、⑦教育の制度、⑧教師論。生涯学習における学校教育の意義について一貫して考えるようにする。

〔教科書〕教師養成研究会『教育原理』
(学芸図書)¥950

『教育小六法』(学陽書房)¥2,200

小中高各『学習指導要領』（文部省、各¥230、¥250、¥370）

『生徒指導の手引』（文部省¥460）

〔参考書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

教育心理学
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方や、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、知能テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学
（教育方法論を含む）

改 田 明 子

教育心理学の基本的な問題について、学習、発達などの領域を中心に概説する。また、心理検査などの実習を行ない、受講者の経験を通して教育心理学上の問題を考察する。

〔参考書〕講義中に、そのつど紹介する。

教育心理学
（教育方法論を含む）

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、「学習意欲と教育評価」の三領域を中心に学び、考えていきたい。

教育心理学
（教育方法論を含む）

中 村 均

教育心理学の研究によって得られた知見と研究の動向を概観し、それを教育方法に展開する方途を検討する。

1. 発達理論

- ・ゲゼル、ピアジェ、ヴィゴツキ等の発達理論から

2. 学習理論と教授方法

- ・刺激=反応理論（行動主義）の立場から
- ・認知理論の立場から

3. 個人差の検討

- ・パーソナリティ理論
- ・知能観

4. 教育方法

- ・教育のシステム化
- ・教育メディア

教育心理学
（教育方法論を含む）

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいれた授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。

〔教科書〕その都度指示する。

青年心理学
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学
（教育方法論を含む）

川 田 三 夫

今も昔も青年（期）をめぐる問題は少なくない。大きく見れば歴史、社会の問題とも言えるが、基本的には個人的・人格的な問題といえよう。

発達や人格に関する心理学理論の理解だけにとどまらず、現代の青年を理解するために必要な“キー・ワード”やコンセプト、青年にかかわるためのアプローチといったものにも言及してみたい。

国際化が言われる今日、古くて新しい問題でもある“日本的な”心性といったものを今の青年がどの程度意識しているのかを、学生諸君に問いかけながら考えてみたい。

教科書は特に指定せず、話題や事例など、必要に応じて資料の形で学生に提示している。参考文献も講義の中で紹介している。

青年心理学
(教育方法論を含む)

小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。

〔教科書〕佐藤 正他著『青年心理学』(専修学校教育振興会) ¥2,000

青年心理学
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学-青年心理学』(学文社) ¥1,000

特別活動

中野目直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』(明治図書)

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』(エイデル研究所) ¥2,000

生活指導

佐藤尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要であ

る。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕随時指示する。

宗教科教育法

小山一乗

先ず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学習指導要領の文言との関係、基本法9条と初期社会科学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。

〔教科書〕『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200

小中高各『学習指導要領』(文部省、各¥230, ¥250, ¥370)

『生徒指導の手引』(文部省¥460)

その他必要に応じて指示する。資料を配布するのでファイルを用意しておくこと。

〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版、1985年)

その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究の

あり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕 改編 中学校・高等学校『国語科教育法』（桜楓社）¥1,800

書道科教育法

金子卓義

芸術としての書を理解し、その学習法、表現法、鑑賞法を学び、その基盤の上で実際の指導法を修得する。

〔教科書〕 未定

英語科教育法

大沢一雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（地理））

川合元彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、地理の学習指導上の諸課題などを考察し、新学習指導要領（社会科・地歴科）についてもとりあげる。また、指導案の具体的な作成も行なう。地図帳は必ず持参すること。

〔参考書〕 随時必要に応じて指示する。

社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（地理））

中島義一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくること。

出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕 山崎謹哉著『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,266

社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（歴史））

野呂肖生

「中学校で社会科、高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科・地歴科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法 （平成元年度以前入学生：社会科教育法）

長谷部八朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科公民科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらおう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕 適宜指示する。

社会科・公民科教育法 （平成元年度以前入学生：社会科教育法）

やしき
谷敷正光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷してきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めると

ともに教員としての資質の養成につとめたい。年間授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校の教育課程と社会科、⑥高等学校の教育課程と公民科、⑦社会科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩高等学校社会科・公民科の目標・内容・取り扱い、⑪教育評価、⑫教育実習の意義、⑬模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑭社会科教師論、⑮教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕大森・谷敷共著『社会科教育研究』

（梓出版）

遠山 啓著『競争原理を超えて』

（太郎次郎社）

〔参考書〕石川達三著『人間の壁』（新潮文庫）
灰谷健次郎著『兎の眼』（新潮文庫）
無着成恭著『山びこ学校』（角川文庫）
その他、若干のルポ、小説、社会科・公民科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注 意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。
視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで目的的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

社会科・公民科教育法
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の育成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、現実の政治的状況・教育状況のなかで紆余曲折してきたのも事実であり、周知のように、高等学校の社会科は公民科と地歴科の二科に再編されることとなった。その分割再編の是非はともあれ、公民科・社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言ってよかろう。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて“教えること”を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

職業科教育法

前 田 幸 一

当授業は以下の項目で進めていく。

1. 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
2. 新旧の『中学校学習指導要領』の比較
3. 職業教育について

商業科教育法

谷 敷 正 光

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなつて、商業教育は大きく軌道修正され、さらに、先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、

職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保は困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われており、商業の教員はまだ不足している（1988年11月）ので、しっかり勉強して教師をめざして欲しい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）
城山三郎『素直な戦士たち』

（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）

〔参考書〕竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』
（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕年間かなりの資料を作成して配布するので、必ずファイルを用意すること。
視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（新訂版）（学芸
図書）¥900

教育実習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義
学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考へてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥370

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）
¥350

教育実習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成一提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』
（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアル
ノート（エイデル研究所）¥1,800

教育実習

村 山 輝 吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項をとりあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ

2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

北村三子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる技術・技能を主題に、文献を読み合い討議をしたい。

教育実習

小山一乗

①教育実習前の段階では、教職課程履修の中で、教育実習の意義、目的・目標、内容、方法等に関する講義をする。各科学習指導案範例、授業記録、板書、授業形態分類、話し方の基本、発問

方法、授業展開の実際、授業参観の実際と記録の仕方等につき概説する。適宜視聴覚教材「教育実習の日々」等を視聴し、実習生としての「心がまえ」形成の事前指導をする。日常生活の諸事象に教育的関心を喚起すること。②実習期間中は、可能な限り、実習校を訪問して指導にあたる。③実習(体験)後は、口頭・レポート作成等による各自の報告を課し、各学校の実態報告等を通して比較考察し、広い視野から各自の体験を省察し再認識し、教職への理解を深め経験知化する。

〔教科書〕小中高の各『学習指導要領』(文部省、大蔵省印刷局、各¥230、¥250、¥370)

『中学校指導書 社会編』(文部省、大阪書籍、¥100)

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(文部省、実教出版¥320)

『高等学校学習指導要領解説 公民編』(文部省、実教出版¥220)

『生徒指導の手引』(文部省、大蔵省印刷局、¥460)

『生徒指導 実践上の諸問題とその解明』(文部省、大蔵省印刷局、¥440)

『学級担任の教師による生徒指導』(文部省、大蔵省印刷局、¥230)

『教育小六法』(学陽書房、¥2,200)

〔参考書〕授業中指示する。

(2) 教職に関する専門科目(選択)

教育哲学

汐見稔幸

今年度も学校に焦点をあて、文化の変容と学校という基本テーマを立てて議論し合いたいと思います。今日の学校で生じている諸問題の多くは、社会の行動様式や価値観が大きく変化しているにもかかわらず、学校の内側のそれはそれに見合っていないことから生じていると考えられます。新しい学校はどうあるべきか、教材、教育方法、教育の目標などいくつかの角度から、現状を批判しつつ、考えてみます。教職を希望しつつも、教育の今後を少し理論的に考えようという人を歓迎します。参加者の意志によりますが、年何回かの簡単な合宿形式で行なう予定です。

教育社会学

高島秀樹

教育社会学は教育を社会的な事象ととらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を目指す営みであることはいうまでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育(家族、遊びと仲間集団、地域社会など)と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』(明星大学) ¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高 島 秀 樹

現代日本の社会は多方面において急速な変動を遂げつつあり、そこに多くの問題を発生させている。それらの変動や問題は伝統的な学校中心の日本の教育のあり方にも大きな影響を与え、いかにあるべきかという鋭い問いを提起していると考えられる。

この講義では現代日本の社会の構造と特質を初めに明らかにした上で、子どもの生活実態と社会化、現代の青年、女性と教育、産業・職業の変化と教育、高齢化と教育、情報化と教育、国際化と教育、といった論点を取り上げてできる限り具体的にその実態を明らかにするとともに、受講生自身にこれらの問題について考え発表してもらうことを取り入れていきたい。

〔教科書〕近藤大生・有本 章編著『現代社会と教育』（福村出版）¥2,000

教育 評 価

大 浜 幾 久 子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法 — 実験・観察・調査・テスト — の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

難 波 和 明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

教 育 調 査

鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内

容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教 育 史

北 村 三 子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

教育関係法規

広 沢 明

憲法、教育基本法、子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、内申書、日の丸・君が代、教科書検定、学校事故、障害児教育、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

(P.16) 参照

社会教育施設

村 山 輝 吉

(P.17) 参照

図書館学 I

山 崎 慶 子

(P.15) 参照

図書館学 II

源 昌 久

(P.15) 参照

青少年問題研究

和田 謙 寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年には特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者を見つめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版
(大志堂印刷) ¥2,500

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

(P.20) 参照

教育臨床心理学

牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいえない。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現している。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

神 田 修

教育法規、法制の原理、歴史のほか、学校制度の法制と運営、教職員の地位と権利、教育行財政のしくみなどについて学習する。

〔参考書〕①兼子 仁、神田 修編著『教育法規事典』1991年(北樹出版)

②『解説教育六法』1992年版(三省堂)

児 童 文 化

湯 山 厚

児童文化とはなにかとか、その史的推移とか、あるいはこれからのあり方は、といったように概論風ではなく、現に身近にある名作物の児童図書や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公教育、民間教育運動との関係、といった観点からとらえなおし、子どもを取りまく環境の一部ともなっている文化財をみなおすいとぐちとしたい。

〔参考書〕上笠一郎著『児童文学概論』(東京堂出版) ¥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』(いずれも岩波文庫) 各 ¥450
坪田譲治編『赤い鳥傑作集』
(新潮文庫) ¥400

H・Aレイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』(岩波書店) ¥1,300

宗 教 教 育

松 本 皓 一

宗教的情操を培うことは円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

大久保 俊 昭

毎回文献資料（史料）のプリントを作成し、これをテキストとして、古代より順次通史的に日本史を検討したい。

〔教科書〕使用せず

日本史概説

小 松 寿 治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井 村 行 子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心とするが、時間の許す範囲内においてアラブ・アフリカ世界についても言及していきたい。教科書等については開講時に指示する。

世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学概説

長 野 寛

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている地域の中から、当時国の地誌を学習することにしたい。講義はプリント資料を中心に進めるが、教科書・参考書は開講後に指示する。

地誌学概説

宮 口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小 林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学
トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮
書店編の『地理統計』

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について
講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じ
る。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地
形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種
々な作業（土地利用図・切峰面図・带状平行投
影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解
を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒
インク等各人用意すること。

自然地理学概説

高 木 正 博

自然地理学の分野のうち、土地・水を基本的な
視点において、自然環境と人間生活とのかかわり
を展望する。

民法 I

青 野 博 之

民法のうち第一編「総則」と第二編「物権」を
対象とする。自分のことは自分で決めるとはど
ういう意味か、自分の物は何を使ってもよいとは
どういう意味か、借金をするときに土地を担保に
するとはどういう意味か、自分と他人の間にある
さまざまなことを、権利・義務という面から考え
いく場合に参考となることを講義したいと願っ
ている。何ができるか（権利）、何をしなければ
ならないか（義務）を、受講生自身が考えてい
けるように、講義を進めたい。質問は大歓迎である。

教科書は下記のものを使うが、ほかに自分で
気に入ったもの、手持ちのものがあればそれでも
よい。

〔教科書〕我妻 栄・有泉 亨著『民法 I（総
則・物権法）』（一粒社）

民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」
第三編「債権」いわゆる「財産法」と呼ばれる分
野を対象とし、その基本的な構造の理解を目的と
する。

また本講義では、重要な法制度や権利・義務が
「受講生自身の日常生活とどのように密接に結び
ついているか」を実感できるように留意し、『鵜
呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもら
えるよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

政治学原論

上 條 末 夫

国家、権力、イデオロギー、議会、選挙、政党
などの概念の解説を通じて政治の本質を明らかに
することに主眼をおくと共に、国際政治の本質と
システムについて解明する。また、政治システム
における主権者たる国民の政治参加のあり方や役
割を明確にし、民主政治のあるべき姿を示したい。
そのことによって、将来政治教育の一端を担う際
に必要な最小限の基礎学力が身につくような講義
とする。

〔教科書〕授業開始時に指示する。

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点を
ふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関ら
しめながら、集団論・組織論などを中心として基
礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現
代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体
的に講述する。

経済原論

阿 部 弘

現在私たちは「資本主義社会」で生活している。
この社会の「富」は何であろうか？「価値」を生
み出すものが「富」であると考えられている。そ

してそれは「商品」の生産・流通によっているのであるといわれている。さて私たちの社会はその意味で「商品社会」であるともいわれているが、そうすると「資本」とか「商品」とかは一体何なのだろうか？そしてまた、このような社会のなかですべての人間が「自由」な関係のうちに働いているというが、はたしてそうなのであろうか。

今年度はこのような問題提起のもとに、「商品」とは何か、「資本」とは何か、それらと私たちの「労働」との関係に焦点を当てて考察をしていく。
〔教科書〕阿部 弘『労働と所有 — 経済学の出発 —』（八千代出版）

経済原論

荒木 勝 啓

経済学全般の理解に必要な基礎理論をマクロおよびミクロの両面から解説する。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）¥3,300

経済原論

小野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕開講の際に指示する。

哲学概説

篠原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとするとき、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにかに受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『莊子』〔内篇¥360、外篇¥400〕（中公文庫）

哲学概説

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしてほしい。

〔参考書〕その都度示す。

倫理学概説

久 保 陽 一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリスト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、実存主義等—現代における倫理の問題—国際的正義、生命倫理等—について考えることにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

宗教学概説

脇 本 平 也

—宗教学説史—経験科学としての宗教学の成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

参考文献をその都度指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から宗教社会学的問題、とりわけ政教関係の問題をとりあえる。

〔参考書〕随時指示する。

宗教学概説

松田文雄

初めに宗教学の研究手法、その領域などを概説し、今年度は日本仏教の特色について述べる。
〔参考書〕 随時指示する。

歴史哲学

麻生建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕 麻生建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

宗教人類学

佐々木宏幹

(P.23) 参照

日本文学史Ⅱ

廣瀬良弘

(P.21) 参照

民間信仰論

谷口貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

美術史概説

中島亮一

(P.22) 参照

東洋思想研究

館野正美

本年度は、中国古代思想における運命論の問題について講じてゆきたい。前半には、孔子・孟子・墨子・荀子らの考え方を概観し、後半に至って、易経の哲学思想を中心に勉強する。

易占の持つ哲学的意義を明らかにしてゆきたいと考えている。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 授業中に紹介します。

日本宗教文化史

脇本平也

教科書その他の参考文献を読み進めながら、日本宗教文化史における夢の位置や意味について考えてみる。

〔教科書〕 西郷信綱『古代人と夢』（平凡社）

日本仏教史

廣瀬良弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに平安末・鎌倉・室町・近世にかけての仏教と社会・文化とのかわりについて講述する。

〔教科書〕 参考史料は随時コピーして配布。

民衆宗教成立史

洗建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕 堀一郎編『日本の宗教』（大明堂）

¥2,000

【職 業】

産 業 概 説

前 田 幸 一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、それらの産業の特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』

(有斐閣)

日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』(東洋経済新報社)

武藤博道・日本経済研究センター編『図説日本産業』(日本経済新聞社)

【商 業】

職 業 指 導

山 田 勇 治

(P.14) 参照

職 業 指 導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕山田勇治著『会計教育論』(創成社)
¥1,300

〔参考書〕近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』(福村出版)
¥1,500

商 業 実 習

前 田 幸 一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕講義の際指示する。

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

山 崎 慶 子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）¥1,442

図書館学 II

源 昌 久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕 日本図書館協会分類委員会改訂編集
『日本十進分類法 新訂8版』
（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版』
（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論)

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項を取りあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念, 歴史, 現状, 外国との比較, 社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕 碓井・倉内編『新社会教育』
(学文社) ¥2,000

〔参考書〕 『社会教育ハンドブック』
(エイデル研究所)

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化, 地域社会と社会教育, 社会教育調査とデータの活用, 社会教育事業計画, 学習情報の提供と学習相談, 社会教育と広

報・広聴, 社会教育施設の経営, 社会教育の評価等が主な内容となる。

〔参考書〕 碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』
(学文社) ¥2,000

社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 — これまでの経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる課題の追求。

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し, 日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』

(全日本社会教育連合会) ¥773

ジェルピ著『生涯教育』(東京創元社)
¥1,500

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P. 8) 参照

婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題(婦人問題)の現状を明らかにし, その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては,

- I 女性問題を捉える基本的視点
(ライフサイクル論, フェミニズム論争など)
 - II わが国における婦人教育政策の歴史と現状
 - III 国際的動向と女性学の発展
 - IV 女性問題学習の実際
(社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践, その他の活動・実践など)
 - V 今後に向けての課題
- という内容を考えている。
〔教科書〕なし
〔参考書〕授業中に紹介する。

図書館学 I

山崎慶子

(P. 15) 参照

博物館学 I

太田喜美子

(P. 20) 参照

青少年問題研究

和田謙寿

(P. 9) 参照

博物館学 II

竹内順一

(P. 20) 参照

青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人たちには是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大な比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようとする心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

〔参考書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版
(大志堂印刷) ¥2,500

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長しています。企業の生きた姿を知ることは、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。

★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

〔参考書〕『MTS総力経営』

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕小林文人編『公民館・図書館・博物館』
〔講座・現代社会教育 第6巻〕
(亜紀書房)

社会体育 I

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを通じ考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。
〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

社会体育Ⅱ

古田潤子

人間の動きと道具との関係。
動きに於ける人と人との対話。
動きと呼吸との関係。
動きのイメージ。
効率のいい力の使い方。
あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P. 20) 参照

教育原理

(P. 1) 参照

教育心理学 (教育方法論を含む)

(P. 2) 参照

青年心理学 (教育方法論を含む)

(P. 2・3) 参照

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチに

も留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』（人間の科学社）

教育社会学

高島秀樹

(P. 7) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P. 8) 参照

教育史

北村三子

(P. 8) 参照

児童文化

湯山厚

(P. 9) 参照

社会教育行政

牧野篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し、生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。この講義では、戦後の社会教育行政の基本理念をとらえ、社会教育固有のあるべき役割を見据えつつ、生涯学習体系の中において、国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方を考察したい。

生涯学習振興法の成立により、生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし、そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいえない。この講義では、生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら、その問題点を指摘するとともに、成人が学ぶということの意味をとらえ返し、そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学 I

太田 喜美子

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しい。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事資格を取得希望の方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法については、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山 輝吉

(P.16) 参照

視聴覚教育

赤堀 正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕プリント使用

博物館学 II

竹内 順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

博物館実習 I（館務）

倉田 芳郎・飯島 武次
太田 喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習 II（収集）

所 理喜夫・葉 貫 磨 哉
恵津森 智行・太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

教育原理

(P.1) 参照

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・飯島武次
太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

考古発掘実習

千葉基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。発掘調査は、一人では実施できないので、学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

『アジア』(山川出版社)

奈良康明著『釈尊との対話』(NHKブックス)

西洋文化史Ⅰ

椋川一朗

西洋の都市(とくにドイツ都市)の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椋川著『ドイツの都市と農村』(吉川弘文館) ¥2,900

インド仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰーインド、東南

西洋文化史Ⅱ

三小田敏雄

平成3年度ヘレニズム世界を取り上げ、ローマの出現までを学んだ。本年度はローマ帝国の歴史を前31年から紀元後150年頃までを取り上げ、その間の政治・社会の情勢、法律、教育、軍隊、文学、芸術など文化の諸相を詳しく学んで行きたい。前・後期2回のレポートを提出して貰う。

〔教科書〕ベンコ編新田一郎訳『原始キリスト教の背景としてのローマ帝国』教文館 ¥4,635

〔参考書〕1. モンタネリ『ローマの歴史』(中央公論社)

2. モンテスキュー著『ローマ人盛衰原因論』
3. ギボン『ローマ帝国衰亡史』
(筑摩書房)

・記録類も併用して考察する。
 [教科書] 辻 惟雄他編著『美術史〈日本〉』
 (近藤出版社) ¥2,060
 [参考書] 適宜指示する。

仏教美術

中島 亮一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドも併用し、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的(宗教的)な意味などを考察する。

[教科書] 佐和隆研著『仏教美術入門』(社会思想社・教養文庫576) ¥720

[参考書] 久野 健著『仏像の歴史』(山川出版社) ¥1,600

西域美術史

相馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。(スライド使用)

現代美術

宮崎 克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題(色彩、空間など)、表現内容の問題(象徴性、思想など)、社会的問題(展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など)等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

考古学概説 I (日本)

(前期) 大三輪 龍彦
 (後期) 倉田 芳郎

日本考古学を中心に、考古学的思考とはどのようなものかを考え、学問の目的、意義について講義する。また後半では、歴史時代特に中世考古学における事例を紹介しながら歴史学との関係についても触れてみたい。

禅美術

海老根 聰郎

日本の中世時代(鎌倉、南北朝、室町時代)の絵画の流れを、画家を中心としてのべる。とりあげる画家は、黙庵、良全、周文、雪舟などである。(毎回スライドを使用する。)

考古学概説 II (外国)

飯島 武次

東洋考古学の概説を講義する。
 [参考書] 飯島武次『夏殷文化の考古学研究』
 1985年(山川出版社) ¥7,000
 飯島武次『中国新石器文化研究』
 1991年(山川出版社) ¥11,000

美術史概説

中島 亮一

昨年度は日本の美術を古代(藤原京時代から平安時代末期まで)を中心にみて来た。それをうけ今年度は中世から近世の一部(鎌倉時代から江戸時代前期まで)に重点をおいて、スライドや文書

考古学特講 I

高浜 秀

ハンガリーから中国の北方オールドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8~7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。今回の講義では、これらの文化を概観する。

考古学特講Ⅲ

飯島 武次

周文化の考古学研究。

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

仏教民俗学

和田 謙寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言えよう。

〔教科書〕和田謙寿著『仏教の地域発展』（訂正版）（仏教民俗研究会発行）¥3,700

〔参考書〕和田謙寿著『仏教葬送習俗の研究』（仏教民俗研究会発行）¥2,300

宗教人類学

佐々木 宏幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔参考書〕佐々木宏幹著『聖と呪力——日本宗教の人類学序説——』（青弓社）
¥2,060

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント・スライド、ビデオを使ったわかりやすいものになりたい。（内容は最先端の知見を含む）

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

地質学

貝塚 爽平

関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象 — たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁分布帯の形成 — についても講ずる。後期には教科書を使う予定。

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕 仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

社会福祉原論

原田 信一

今日の社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者(対象者)間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応えうる専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕 1. 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』(ミネルヴァ書房)
2. 岡村重夫『全訂・社会福祉学』
(柴田書店)

老人福祉論

(前期) 東 條 光 雅
(後期) 中 野 いく子

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展

望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕 冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版(海声社) ¥1,640

〔参考書〕 三浦文夫編『図説 高齢者白書1991』
(全社協) ¥2,700

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 1991年度版』(老人福祉開発センター) ¥3,500

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕 星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕 (1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

高橋 重宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというものではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を

明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』

(川島書店)

〔参考書〕開講時に指示する。

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

永田 幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意

味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開発とその方法に関する基礎理論を実践動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書・参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』

(全国社会福祉協議会)

¥2,000

心理学(福祉)

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学(福祉)

山手 茂

社会福祉学の基礎科学としての社会学の概論を講義する。講義内容は、次のとおりである。

- I. 社会学と社会福祉学
- II. 現代社会と現代人の生活・意識
- III. 現代社会と科学技術
- IV. 現代社会と専門職
- V. 現代社会における家族
- VI. 現代社会における地域社会
- VII. 現代社会における社会問題
- VIII. 福祉社会の形成

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座・12・社会学』（中央法規出版）（新学年度までに改訂版が出版される予定、価格未定）

〔参考書〕山手 茂『社会問題と社会福祉－社会学・社会福祉学論集－』（亜紀書房）
¥2,800

法 学 (福祉)

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることが、いちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等につて概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉計画論

和 田 敏 明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進行している。こうした状況を踏まえ、社会福祉ニーズを社会福祉の組織運営に的確に反映し、福祉サービスを系統化・総合化したり、広く市民の社会福祉への参加を促すことをねらいに、社会福祉の計画化が要請されている。その内容は、処遇計画・社会資源の調達計画・社会計画のなかの社会福祉計画・行政計画・活動・行動計画等の社会福祉計画である。平成5年度から都道府県および市町村行政は「老人保健福祉計画」の策定が義務づけられた。講義では国・都道府県・市町村・小地域の各段階の計画や今日の焦

点である「地域福祉計画」「老人保健福祉計画」を中心に、その理論と方法及び具体的事例についての検討を行いたい。

社会福祉運営論

永 田 幹 夫

社会福祉サービスの普遍化に伴ってその規模は急速に拡大・複雑化し、社会福祉の運営管理を包括的にとらえるソーシャル・アドミニストレーションの研究が注目され、重視されてきている。本講ではその概念成立に至る歴史的経過、手法技術、現代的課題及びこれらに関連して社会福祉政策、行政を含む今日の社会福祉実践上の問題点に迫ってみたいと思う。

〔教科書〕改めて指示したい。

家族福祉論

田 村 健 二

現代の家族生活の状況を、社会との関係、および家族内の関係から明らかにし、そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで、こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか、主に現今の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面、ならびに今後に要望される福祉機能の側面について、解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって、全国民にわたる健全な在宅福祉は、家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。

〔教科書〕田村健二『家族-社会の鎖・夫婦親子の鎖-』（金子書房）¥2,000

〔参考書〕田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1, 2（誠信書房）¥各2,200

医療福祉論

春 見 静 子

現代の社会福祉は多くの領域で医療との関係をますます緊密なものとし、両者を分離することはできない。児童、障害、老人福祉施設の職員が処遇を行ううえで、医療スタッフとどのように協力していくか、また、病院、保健所、リハビリテーション施設等のソーシャルワーカーが社会福祉をいかに実践しているかを実例を踏まえて検証する。

教科書・参考書は授業時に指示する。

婦人福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時紹介。

保健福祉論

安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕平山宗宏・高山忠雄監修 日本保健福祉学会編

『保健福祉学』（川島書店）

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思

想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

中 野 いく子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

駒沢大学の構内図

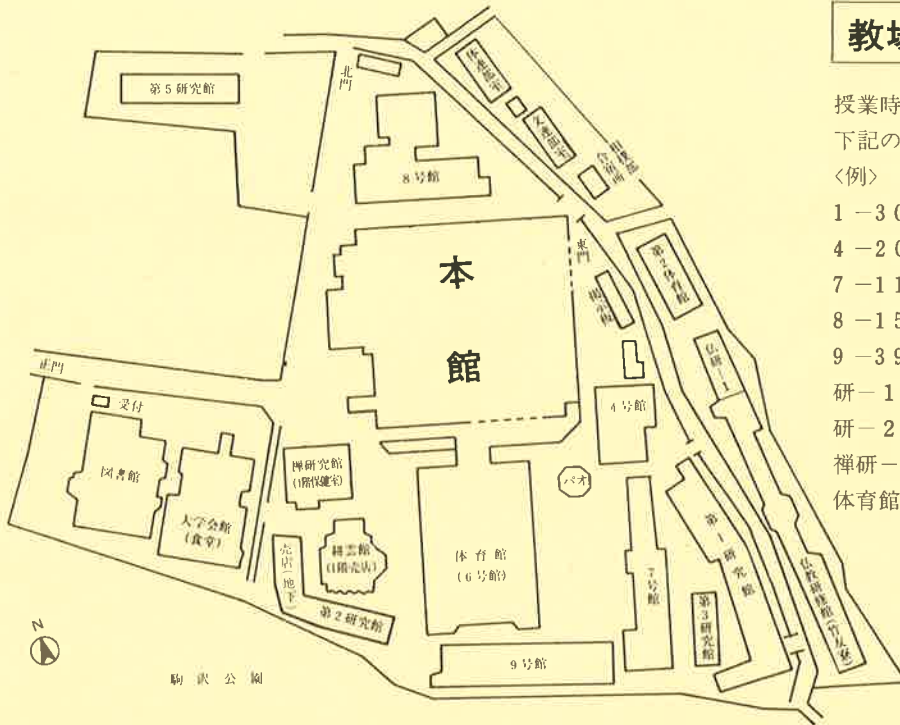
教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見てください。

<例>

1-301	本館(1号館)3階
4-204	4号館2階
7-110	7号館1階
8-150	8号館1階
9-390	9号館3階
研-1	第2研究館1階
研-2	第2研究館1階
禅研-201	禅研究館2階
体育館	体育館2階

(ただし選択種目により第2体育館になる)



本館 1F

各事務室・掲示板配置図

教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
(健康診断書および在学証明書は学生部)
- ※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
(休学・復学・退学・死亡)
改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更・聴講
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部転科
- ⑨履修・試験・成績・学業相談
学部演習(仏教学部・経済学部)
法学部・経営学部



掲示

- Ⓐ第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項、その他
- Ⓑ第2掲示板(裏面)ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- Ⓒ第3掲示板ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- Ⓓ休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- Ⓔ授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- Ⓕ大学院・留学生関係掲示板

